

1

共同研究・研究プロジェクト

1. 文学資源研究系

【総 括】

文学資源研究系は、原本資料の調査に基づいた総合研究を行うことを主たる目的とする、4つのプロジェクトによって構成される。研究方法としては、書誌データの集積と分析、書籍の形態と内容の考察、目録及び解題の作成などを基本としながら、さらに文学基盤と生成・変容・享受の問題までを総合的に追究しようとするところに特色がある。また、本研究系のプロジェクトは、原本資料の調査、収集、提供という、当館設立のミッションに基づいた基幹事業に近接して起立しているものが多いため、その基幹事業の動向にも注意を払いつつ、それとの切り分けを意識しながら進めなければならない難しさもある。

本年度は、4プロジェクトのうち2プロジェクトが、外部の研究者の研究協力を取り入れた共同研究として進めたほか、1プロジェクトも実質的に共同研究としての活動を実施することができた。また、ほぼ月例で全館的に催されたプロジェクト発表会での討議を踏まえ、様々な意見を参考にしながら、研究の進展を図った。さらに、前年度に引き続き、研究機関研究員、リサーチアシスタント等の若手研究者の参加を得ることに努めた。各プロジェクトとも中期計画の2年目に入ったが、研究の基礎的な面は順調に整備されてきており、次年度以降の本格的な展開に備えることができたと評価できる。

共同研究【日本古典籍特定コレクションの目録化の研究】

プロジェクト代表者：鈴木 淳

プロジェクト参加者：大高洋司、落合博志、加藤昌嘉、渡辺浩一、相田 満、井田太郎、入口敦志、山田直子、エリス・ティニオス（当館外国人研究員・リーズ大学名誉講師）、大内瑞恵（当館リサーチアシスタント）、浅野秀剛（千葉市美術館学芸課長）、井上泰至（防衛大学校人間文化科学助教授）、神作研一（金城学院大学文学部助教授）、佐々木孝浩（慶應義塾大学附属研究所斯道文庫助教授）、佐藤 悟（実践女子大学文学部教授）、松方冬子（東京大学史料編纂所助手）、ロバート・キャンベル（東京大学大学院総合文化研究科助教授）

(1) 概 要

本研究は、国内外に存在する日本古典籍コレクションの内、コレクション総体として特に研究価値の高いものを対象に、原本資料の調査を実施し、その結果得られた書誌データの分析に基づいた研究を行うものである。研究方法は、コレクションの原本調査とその書誌情報の分析を基本とするもので、又その書籍情報について、書目別に整理し、古典籍に即した独自分類表による分類を試みるという、目録化の方法を取っている。そうすることによって、研究利用者への書誌情報の還元に結びつけたいと意図するものである。

具体的には、以下の三つの課題を柱として進めてきた。

- ・田安德川家蔵古典籍目録の作成
- ・ドイツ国プルヴェラー蔵日本絵本コレクションのデータ化
- ・古典籍の実状に即した分類表の作成

各項目ごとの進捗状況は、下記のとおりである。

① 田安德川家蔵古典籍目録の作成

「田藩文庫目録と研究」と題し、単行本として平成 18 年 3 月に出版する運びである。内容は、田安德川家蔵国文学研究資料館寄託資料 1,007 点の目録及び索引を主体に、研究（解題）論文 3 本と付載資料（御書物目録、売立て目録）から成る。研究論文の執筆者は、東京大学史料編纂所の松方冬子氏、慶應義塾大学斯道文庫の佐々木孝浩氏、及び鈴木 淳である。本目録作成によって、近世大名家（将軍家支家）の蔵書構築の 1 事例としての内容的また形態的特質を明らかにした。

② プルヴェラー蔵日本絵本コレクション等のデータ化

これまでの調査によって集積された書誌データの整理を進めている。同時に、絵本原本の収集に努め、国文学研究資料館蔵の絵本コレクションの充実を図った。ただし今年度は、上記、田安德川家蔵古典籍目録の作成に精力を注いだため、絵本研究のさしたる進展は得られなかった。

③ 古典籍分類表の作成

外部の中堅、若手専門研究者を招いて、分類研究会を開き、日本文学を中心に、漢籍、医書などの分野について分類項目の検討を行って来た。その結果、古典籍の分類についての分類表の改正試案作成の見通しを得ることができた。

なお、本研究は、科学研究費補助金の基盤研究（A）「日本古典籍分類概念表の確立と古典籍総合目録データベースにおける分類化促進」（研究代表者 鈴木 淳）の成果を一部、反映させながら進めてきた。

(2) 活動記録

① 田安德川家蔵古典籍目録編集会議

日 時：平成 17 年 7 月 27 日

場 所：共同研究室

議 題：目録編集に関する最終確認

出席者：佐々木孝浩、松方冬子、鈴木 淳、山田直子、大内瑞恵

② プルヴェラー絵本コレクション研究会

日 時：平成 17 年 7 月 28 日

場 所：文学資源研究系研究主幹室

テーマ：「同コレクションの特色について」

出席者：浅野秀剛、ロバート・キャンベル、佐藤 悟、鈴木 淳

③ 古典籍分類表研究会

・第 1 回（平成 17 年 6 月 28 日）

場 所：中会議室

テーマ：「和歌」

出席者：井上泰至、神作研一、鈴木 淳、加藤昌嘉、入口敦志、井田太郎、山田直子、津田真弓、大内瑞恵

・第2回（平成17年9月5日）

場 所：中会議室

テーマ：「連歌俳諧」

出席者：尾崎千佳（ゲストコメンテーター、山口大学人文学部助教授）、神作研一、鈴木 淳、加藤昌嘉、井田太郎、入口敦志、山田直子、津田真弓、大石房子、大内瑞恵

・第3回（平成17年10月17日）

場 所：大会議室A

テーマ：漢籍、準漢籍

出席者：高山節也（ゲストスピーカー、二松学舎大学東アジア学術総合研究所教授）、神作研一、鈴木 淳、陳 捷、入口敦志、相田 満、井田太郎、山田直子、津田真弓、戸田加代子（当館管理部事業課学術情報係長）、増井ゆう子（当館管理部事業課専門職員）、和田玲子（当館管理部事業課図書情報係長）

・第4回（平成17年12月16日）

場 所：大会議室A

テーマ：「医書」

出席者：古曾戸洋（北里研究所〈東洋医学総合研究所〉教授）、神作研一、鈴木淳、陳 捷、入口敦志、井田太郎、山田直子、戸田加代子、増井ゆう子

・第5回（平成18年3月6日）

場 所：中会議室

テーマ：今後の方針

出席者：神作研一、町泉寿郎（二松学舎大学東アジア学術総合研究所）、鈴木 淳、入口敦志、山田直子、大石房子、増井ゆう子

【和刻本（五山版・近世初期刊本）の研究】

プロジェクト代表者：山崎 誠

プロジェクト参加者：陳 捷、入口敦志、堀川貴司（当館客員教授・鶴見大学文学部教授）

(1) 概 要

当初の計画に従って、和刻本の書誌情報の整備に関する基礎作業を進め、また、当館所蔵の原本資料を最大限に活用するための調査を行った。共同研究会を4回開催したほか、和刻本漢籍データベースの作成・研究文献目録の作成準備を進めた。

① 五山版・近世初期刊本の書誌情報の整備

平成16年度に引き続き、五山版、近世初期刊本の書誌データと、それに関する研究論文、書影索引などの情報を織り込んだ基本台帳の作成。

② 和刻本漢籍データベースの作成

長沢規矩也氏『和刻本漢籍分類目録』と『和刻本漢籍分類目録補正』の書誌データを入力し、それを基礎として、和刻本漢籍のデータベースを作成する。

③ 当館調査・収集資料により和刻本データの整理

平成16年度に完成した分に引続きデータの点検と入力を進み、現在まで、点検について、平成8年度以前の中部・近畿地区と大須文庫（平成9年度以降、中部地区）を除いて完了し、入力については、平成8年度以前の中部・四国地区、九州地区、平成9年度以降の近畿、九州地区の分は終えた。

④ 研究文献目録の作成

昨年度から検討されてきた文献目録の収録範囲、分類、凡例などに基づいて和刻本に関する研究文献の調査・収集を行ってきた。国文学関係の論著と学術雑誌の他に、日本の中国文学・思想史・東洋史などの関係論文の調査・収集方法を検討している。

(2) 活動記録

① 和刻本漢籍研究会

・第1回（平成17年5月17日）

場 所：中会議室

報 告：「日本における漢文小説と和刻本」 陳慶浩（仏・国家科学研究センター）

参加者：松野陽一、鈴木 淳、山崎 誠、大高洋司、陳 捷、入口敦志

・第2回（平成17年6月13日）

場 所：中会議室

報 告：「漢文小説と日中韓の書籍交流」 朴現圭氏（韓・順天郷大学中文科教授）

参加者：関 明子、鈴木 淳、山崎 誠、大高洋司、陳 捷、入口敦志、井田太郎、津田真弓

・第3回（平成18年1月19日）

場 所：中会議室

報 告：「和刻本漢籍の書誌調査と目録化—マニュアル作成上の問題点」 山田直子

「和刻本漢籍のデータベース化の諸問題」

阿蘇竜太（当館管理部事業課図書情報係員）

参加者：関 明子、山崎 誠、大高洋司、陳 捷、入口敦志、山田直子、阿蘇竜太

・第4回（平成18年2月8日）

場 所：共同研究室

報 告：「和刻本漢籍について」 長澤孝三（帝京大学教授）

参加者：関 明子、堀川貴司、鈴木 淳、山崎 誠、大高洋司、陳 捷、入口敦志

・第5回（平成18年3月9日）

場 所：中会議室

報 告：「中国の古典籍の整理と和刻本漢籍について」

呉 格（中国復旦大学教授・復旦大学図書館館長）

【学芸書としての中世類題集の研究 —『夫木和歌抄』を中心に—】

プロジェクト代表者：田淵句美子

プロジェクト参加者：小川剛生、齋藤真麻理、久保木秀夫、三村晃功（京都光華女子大学学長）、鈴木健一（学習院大学文学部教授）、福田安典（愛媛大学教育学部助教授）、伊藤善隆（湘北短期大学専任講師）

(1) 概 要

昨年度行った調査と整理に基づき、『夫木和歌抄』の伝本・抄出本である伝後小松院宸筆本、叡山文庫本、古筆切、および『拾葉集』『鳥類八百首』等の調査と研究をすすめ、また関連する中世類題集の研究を行った。また『夫木和歌抄』と関連の中世類題集について、成立、背景、特質などに関する多角的な研究を進め、2度の共同研究会を開催した。

平成17年度の成果としては、継続中のものも含め、以下のようなものがあげられる。

- ① 『夫木和歌抄』の伝本及び抄出本の調査・研究・翻刻
 - ・伝後小松院宸筆本（巻一のみ）の翻刻
 - ・宮内庁書陵部蔵・伏見宮家旧蔵『拾葉集』の翻刻と解題
 - ・叡山文庫（真如蔵）本『夫木和歌抄』の調査と翻刻・研究、およびその真如蔵コレクション形成の背景についての調査・研究
 - ・岩国徴古館蔵『鳥類八百首』の翻刻
 - ・勝命撰の散佚類題集『懷中抄』に関する研究
 - ・『夫木抄』古筆切の研究
 - ・後陽成院撰『方輿勝覧集』合綴『夫木拔書』の研究
 - ② 比較資料・関連資料の調査・研究・翻刻
 - ・明治大学附属図書館蔵『歌枕名寄』残欠本の研究
 - ・『歌枕名寄』及び未詳名所歌集（伝藤原資経筆）などの古筆切の研究
 - ・小幡正信編『歌林拾葉抄』の翻刻（約半分）
 - ・『蔵玉和歌集』の研究
 - ③ その他
 - a. 『夫木和歌抄』成立を記した抜書本識語の再検討（岡田希雄旧蔵『夫木拔書』（万治元年奥書写。国立国会図書館蔵）の調査・検討）
 - b. 宋代類書の中世文学に与えた影響、特に類題集との関係
 - c. 『夫木和歌抄』が有する左注についての研究
- (2) 活動記録
- ① 研究会の開催
 - ・館内研究会および打ち合わせ
日 時：平成 17 年 7 月 27 日
場 所：国文学研究資料館
参加者：田淵句美子、小川剛生、齋藤真麻理、久保木秀夫
 - ・共同研究会（平成 17 年 8 月 29 日）
 - 1 プロジェクトの計画と現況についての報告
 - 2 「類題集出典注記に関する一考察—勝命撰『懷中抄』を視座として—」 久保木秀夫
参加者：七田麻美子、三村晃功、鈴木健一、福田安典、伊藤善隆、田淵句美子、小川剛生、齋藤真麻理、久保木秀夫ほか 3 名
 - ・共同研究会（平成 18 年 1 月 13 日）
 - 1 「『夫木和歌抄』成立考—『扶桑葉林』をめぐる—」 小川剛生
 - 2 「三手文庫蔵『百草和歌抄』の成立」 三村晃功
 参加者：三村晃功、福田安典、伊藤善隆、田淵句美子、小川剛生、齋藤真麻理、久保木秀夫ほか 3 名
 - ② 文献資料調査
 - ・平成 17 年 9 月 7 日 尊経閣文庫 歌書の調査（田淵句美子）
 - ・平成 18 年 1 月 12 日 国立国会図書館『夫木拔書』その他岡田希雄文庫本の調査（小川剛生）
 - ・平成 18 年 2 月 7～8 日 叡山文庫 『夫木和歌抄』の調査（齋藤真麻理）
 - ・平成 18 年 3 月 7 日 京都女子大学附属図書館 『夫木抄抜書』の調査（久保木秀夫）

共同研究【近世後期小説の様式的把握のための基礎研究】

プロジェクト代表者：大高洋司

プロジェクト参加者：井田太郎、津田眞弓、木越俊介（山口県立大学国際文化学部専任講師）、湯浅佳子（東京学芸大学教育学部助教授）、飯倉洋一（大阪大学大学院文学研究科教授）、小二田誠二（静岡大学人文学部助教授）、高橋圭一（大谷女子大学文学部教授）、田中則雄（島根大学法文学部助教授）、濱田啓介（京都大学名誉教授、花園大学文学部客員教授）、藤沢 毅（尾道大学芸術文化学部助教授、山本 卓（関西大学文学部教授）

(1) 概 要

本年度は、八戸市立図書館所蔵の読本・実録のデジタル画像サンプルデータの作成、文政期人情本の資料整備等、当初予定していた研究の基礎作業をほぼ終了し、2 度の共同研究会における周知と討議を経て、『読本事典（仮称）』、及び実録・人情本解題集の作成準備が整った。

平成 17 年度の成果としては、以下のようなものがあげられる。

- ・本年度 2 回のプロジェクト共同研究会を行った。
- ・八戸市立図書館所蔵読本・実録画像（部分）DVD、CD-ROM（全 1,645 コマ）を作成し、第 2 回共同研究会において、本プロジェクトのメンバーに配付した。『図説〈読本〉事典』（仮題）の解題参考、及び図版に用いる予定である。
- ・浜田啓介氏提供の読本書誌カード（1,030 点）の入力を完了した。メンバーに配付し、今後の作業に役立てる予定である。

(2) 活動記録

① プロジェクト共同研究会

- ・第 1 回（平成 17 年 7 月 26 日）

報 告：「経過報告」 大高洋司

「人情本解題作成準備の報告とお願い」 津田眞弓・木越俊介

発 表：「写本型の人情本について」 檜山裕子

「人情本の書誌調査から」 二又 淳

出席者：勝又 基、小二田誠二、木越俊介、近藤瑞木、鈴木圭一、田中則雄、濱田啓介、檜山裕子、二又淳、山本 誠、湯浅佳子、大屋多詠子、大高洋司、津田眞弓、菊池庸介

- ・第 2 回（平成 18 年 1 月 7 日）

報 告：「経過報告」 大高洋司

「紹介 八戸市立図書館所蔵読本・実録のサンプルデータ CD-ROM」

井田太郎・菊池庸介

発 表：「泣本・人情本」 山本 誠

「『泰平真撰 難波秘録 本朝盛衰記』についてー長い長い実録に関する

短い報告ー」 高橋圭一

出席者：濱田啓介、飯倉洋一、山本 卓、高橋圭一、小二田誠二、田中則雄、藤沢 毅、湯浅佳子、木越俊介、近藤瑞木、鈴木圭一、山本 誠、檜山裕子、勝又 基、津田眞

弓、菊池庸介、大高洋司、井田太郎、大屋多詠子、大内瑞恵、山名順子、佐藤藍子

2. 文学形成研究系

【総 括】

文学形成研究系では、成立・表現・享受といった観点から日本文学の作品的特質を明らかにすることを目的として、全時代にわたる1つの研究プロジェクトと、各時代個別の3つの研究プロジェクトを推進した。

全時代にわたるプロジェクト（「本文共有化の研究プロジェクト」）は、3年計画の2年目として、当研究系の全教員が参加した。昨年度本文を活字とデータベースで実験提供した『扶桑拾葉集』とそれに対するアンケート調査、及び本年度実験提供すべく作成作業を進めている『夫木和歌抄』を素材として、本文共有化方法の研究を推進した。

時代別のプロジェクト（「平安文学における場面生成研究プロジェクト—物語の生成と受容—」「古典形成の基盤としての中世資料の研究プロジェクト」「近世文芸の表現技法〈見立て・やつし〉の総合研究プロジェクト」）は、6年計画の2年目として、それぞれの時代を専攻する内部の教員が中心となり、客員教授も参画して推進した。開催した研究会では外部研究者の参加を積極的に要請し、広い視野から当該テーマの研究を展開した。

各プロジェクトには、非常勤研究員や外国人研究員も参加、また外部から若手研究者の参加も多く、研究者の養成、研究の国際的展開といった点においても成果があった。

プロジェクトの第2年次での報告とりまとめとして、DVD 2点、報告刊行物 4点を作成したことが、平成 17 年度の目に見える形での主たる成果であった。これはプロジェクトの現段階を学界と社会に発信し、その評価を得つつ研究を進めていくためのものである。

【本文共有化の研究】

プロジェクト代表者：武井協三

プロジェクト参加者：松村雄二、中村康夫、山下則子、伊藤鉄也、落合博志、加藤昌嘉、相田 満、江戸英雄、松本智子

(1) 概 要

この研究は、日本文学の本文を共有するための方法を探り、さらに研究者コミュニティにとって有益な学術研究基盤である日本文学の本文を提供するための、メディアの研究である。

当該プロジェクトは、本文の実験的提供とそれに対する評価アンケートを回収することなどによって、広く研究者のコンテンポラリーな要請を汲み取って研究を推進する。

また、取り扱おうとする作品の研究の実情をも十分調査し、共有するに当たって最も有効な本文とは何か、それを提供するための最適なメディアは何かについて研究を進めている。この観点にたって平成 17 年度は 4 回の研究会を開催した。

この研究は、電子化を含む多様な本文の共有化を図り、それをサンプルとして試験的に学界に提供、その評価を得た上で、古典文学作品の本文提供の適切な姿を探求する点に特色がある。そのため平成 17 年度は、中世の類題集『夫木和歌抄』の本文提供に取り組んだ。この『夫木和歌抄』は歌数が 17,000 首を超える大部な物で難解な和歌を多く含み、本文を確定する環境は難儀を極めていいる。こういう場合は 1 本 1 本の本文を利用しやすくなることがまず第一歩であり、その上で、本文の比較利用、検索による語彙や表現の検証に進むプロセスが予想される。そこで、館蔵の写本、版本各 1 本及び濱口博章氏所蔵の零本 1 巻をフルテキストデータベースにした。

さらに研究環境の充実、整備を考えて、注釈書である九州大学附属図書館蔵の『夫木集溪雲抄』を印刷体で提供することとした。

本研究のように、研究本位の立場に立ち純粹に研究に有効な本文の提供を策定することは、今後の日本文学研究の展開を大きく左右するものであり、情報処理機器が広く行き渡った今日においては、電子化テキストについての調査・研究は緊急の重要課題でもある。

これら本文の策定と電子化という2つの作業によって、この課題を解決するための一過程を築きえた。

(2) 活動記録

① 研究会

- ・第1回（平成17年7月13日）

「『扶桑拾葉集』評価アンケートの集計結果について」

松本智子

出席者：武井協三、中村康夫、山下則子、伊藤鉄也、落合博志、加藤昌嘉、相田 満、江戸英雄

- ・第2回（平成17年9月8日）

「情報処理機器による本文共有の経緯－『データベース懇談会報』全60号から－」

中村康夫

出席者：武井協三、加藤昌嘉、相田 満、江戸英雄、松本智子

- ・第3回（平成17年11月2日）

「現存の謡本と謡曲詞章の系統－『謡曲データベース』作成の現況報告を兼ねて－」

落合博志

出席者：武井協三、中村康夫、山下則子、加藤昌嘉、江戸英雄、入口敦志、松本智子

- ・第4回（平成18年2月15日）

「現存の謡本と謡曲詞章の系統（続）－諸流諸本の異同－」

落合博志

出席者：武井協三、中村康夫、山下則子、加藤昌嘉、相田 満、江戸英雄、入口敦志、松本智子

② 『夫木和歌抄』評価アンケート書作成

（平成18年4月アンケート約160枚発送・平成18年5月アンケート約100枚回収）

③ 報告書等

- a. DVD：『夫木和歌抄』写本（国文学研究資料館蔵）フルテキストデータベース

『夫木和歌抄』版本（国文学研究資料館蔵）フルテキストデータベース

『夫木和歌抄』零本・一軸（濱口博章氏蔵）フルテキストデータベース

和歌検索システム

- b. 報告書：A5版2段組 240頁

書名『夫木和歌抄データベース〔DVD〕 付 九州大学附属図書館蔵『夫木集溪雲抄』翻刻』

目次 緒言

凡例

『夫木集溪雲抄』本文

DVDの使い方

【平安文学における場面生成研究—物語の生成と受容—】

プロジェクト代表者：中村康夫

プロジェクト参加者：伊藤鉄也、加藤昌嘉、江戸英雄、金光桂子（大阪市立大学大学院講師）、高橋由記（明星大学非常勤講師）、中川照将（皇学館大学講師）、萩野敦子（琉球大学助教授）、松岡智之（静岡大学助教授）、横溝 博（日本学術振興会特別研究員）

(1) 概 要

本プロジェクトは、平安～鎌倉時代に作られた物語を主たる対象とし、作品を構成する「場面」に着目しながら、その生成状況と受容状況を説明することを目的とする。

平成 16 年度は、館内教員 4 名で《く水》の平安文学史」というテーマのもと、平安時代の諸作品を横断的に調査し、公開研究会の開催・報告書の刊行を行ったが、テーマ上、他の専門領域へ拡散的に広がり過ぎることが懸念され、また、連携研究「人と水」へ一部合流することをも鑑みて、平成 17 年度からは特に、平安時代の「物語」に視点を定め、館外の専門家を巻き込んだ共同研究へ展開することを目指し、新たに《物語の生成と受容》というテーマを設けた。

平安物語をめぐる近年の研究は、各作品ごとに細密化の度を深め、それぞれに異なった次元の議論を孤立的に展開しているように見受けられるが、本プロジェクトは、諸分野で新たな問題提起をされている館外の平安文学研究者に参加を要請し、現在最も尖鋭化している問題・今後展開してゆくべき視点などを一つの円卓会議に上せつつ、それらを俯瞰的な立場から議論することで、問題の共有化を図り新たな研究の可能性を学会に発信してゆくことを目指して推進されている。（上記の館外メンバー 6 名は、『源氏物語』『夜の寝覚』『狭衣物語』『栄花物語』『いはでしのぶ』『風葉和歌集』等につき精力的に論文発表・学会発表を行っている 30 代の研究者である。）

研究会においては、『うつほ物語』『源氏物語』『夜の寝覚』『住吉物語』『松浦宮物語』『栄花物語』等を対象とした基調報告をもとに、「場面生成」「成立」「流布」「改作」「異文」「散佚」「前代物語摂取」「絵画化」等の視点から、各作品・各ジャンルを超える総合的な討議を行った。加えて、研究会では、当館の所蔵資料『改作本夜寝覚物語』（金子氏寄託）・『室町中期連歌学書』（平成 16 年度新収）等の調査・検討も行った。なお、2 回の研究会は半公開の形で開催したが、両会とも館内外から複数の研究者の参加を得た（下記）。

平成 17 年度の研究成果は、基調報告をもとにした論稿、共同討議をもとにした議論の経緯を収載、資料画像・参考文献等を付加して刊行し、国内外の研究者・研究機関に配布する。

平成 18 年度以降は、研究会の回数を増やし、館外研究者のさらなる参加を促進する予定。

(2) 活動記録

① 研究会等

a. 研究打ち合せ（研究会および報告書作成のためのミーティング）

日 時 平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月（月 1, 2 回）

参加者 中村康夫、伊藤鉄也、加藤昌嘉、江戸英雄

b. プロジェクト研究発表会（当館主催）

日 時 平成 17 年 6 月 21 日（火） 15:00 ～ 16:30

場 所 大会議室 B

発 表 「平安時代の水思想の一面—『うつほ物語』より—」 江戸英雄

c. 《物語の生成と受容》研究会

・第 1 回（平成 17 年 12 月 1 日）

場 所 大会議室A

発 表 「物語の生成—『うつほ物語』の重複本文を例に—」 江戸英雄
 「『源氏物語』桜人巻の散佚をめぐって」 加藤昌嘉
 「住吉物語における源氏物語摂取について—改作と創作の狭間から—」 横溝 博

参加者 金光桂子、高橋由記、中川照将、横溝 博、伊井春樹（当館館長）、中村康夫、伊藤鉄也、加藤昌嘉、江戸英雄、久保木秀夫（当館文学資源研究系助手）、小川陽子、安道百合子（跡見学園女子大学非常勤講師）、大内英範（総合研究大学院大学大学院生）、椎橋真由美（東洋大学大学院生）

・第2回（平成17年12月26日）

場 所 大会議室B

発 表 「『夜の寝覚』における改作について」 中川照将
 「『栄花物語』の続編について」 高橋由記
 「『松浦宮物語』の省筆・偽跋について」 金光桂子

参加者 金光桂子、高橋由記、中川照将、萩野敦子、松岡智之、横溝博、中村康夫、伊藤鉄也、加藤昌嘉、江戸英雄、小川陽子、安道百合子、横井孝（実践女子大学教授）、古瀬雅義（安田女子大学助教授）、古田正幸（東洋大学大学院生）

② 報告書等

書名：『国文学研究資料館平成17年度研究成果報告 物語の生成と受容』

体裁：A5版1段組 238頁

刊行：平成18年3月10日発行

内容：平安文学における場面生成研究プロジェクト《物語の生成と受容》第一回研究会
 基調報告1『うつほ物語』の生成について—いわゆる「重複」本文の問題から—

江戸英雄

共同討議1

基調報告2『源氏物語』桜人巻の散佚をめぐって

加藤昌嘉

共同討議2

基調報告3『住吉物語』における『源氏物語』摂取について—改作と創作の狭間から—
 横溝 博

共同討議3

平安文学における場面生成研究プロジェクト《物語の生成と受容》第二回研究会

基調報告4『夜の寝覚』における改作について 中川照将

共同討議4

基調報告5『栄花物語』の後朱雀朝について—姫子を中心に—

高橋由記

共同討議5

基調報告6『松浦宮物語』の省筆・偽跋について

金光桂子

共同討議6

【古典形成の基盤としての中世資料の研究】

プロジェクト代表者：松村雄二

プロジェクト参加者：落合博志、相田 満、渡邊匡一（当館客員助教授・信州大学助教授）、伊藤

潤（当館リサーチアシスタント）

(1) 概要

日本の古典文化の原型が確立した中世期の文学事象を対象に、「古典」なるものの意味を包括的にとらえ直すための研究。書籍や記録類、人物の伝記や図像類など中世資料の調査研究を通して、古典形成の基盤を探る。

なお、本研究は科学研究費補助金基盤研究（A）「江戸時代初期出版年表の作成」（研究代表者 落合博志）、同基盤研究（B）（2）「和漢古典学のオントロジモデルの構築」（研究代表者 相田 満）の成果も一部取り入れて進めている。

(2) 活動記録

平成 16・17 年度は、「人物・キャラクター」に関する研究を重点的に進めてきた。研究の基盤資源として、「歴史人物データベース」の構築と開発を進め、平成 17 年 12 月にデータベースのオンライン公開に供した。なお、オンライン公開されるデータベースについては、平成 18 年度からは、検索機能付データベースへとバージョンアップしたものの公開を予定している。さらに、検索機能付きデータベースソフトを DVD 付録としてもつ成果報告書を作成した。内容としては、人物の画像データベースに加えて、人物の略歴を芳賀人名辞典と、地下家伝を典拠データとして搭載し、異体字・異称にも対応した高次のデータベースとなっている。それに加えて、研究論考を収載し、本研究プロジェクトの第 1 期の総括とした。また、第 2 期の研究主題となる「書籍」についても、善通寺菟蔵聖教の全貌を把握するための調査と分析を併行して進めている。調査については、予定よりも早く完了するかもと思われたが、新たな典籍が出てきたこともあり、予定通りのスケジュールに基づく研究進行状況となった。研究打合会は、プロジェクトメンバーにて行われ、平成 17 年度中は 4 回の会合を持った。

① 研究会・打合会

平成 17 年 5 月 19 日・7 月 14 日・11 月 10 日・12 月 15 日

② 調査

- ・平成 17 年 7 月 26 日～27 日 随心院聖教調査研究（相田 満）
- ・平成 17 年 7 月 28 日～29 日 善通寺聖教調査研究（落合博志・渡邊匡一）
- ・平成 17 年 8 月 18 日～21 日 醍醐寺聖教調査研究（相田 満）
- ・平成 17 年 9 月 12 日～15 日 善通寺聖教調査研究（落合博志・渡邊匡一）
- ・平成 17 年 10 月 29 日～31 日 随心院聖教調査研究（相田 満）
- ・平成 18 年 2 月 1 日～4 日 随心院聖教調査研究（相田 満）

③ 基礎資料の整備・成果公開

a. 歴史人物画像データベース（ホームページ版）の作成・公開

898 名分の高精細画像データベースを当館ホームページから公開した。

<http://base1.nijl.ac.jp/~rekijin/syouzou.html>

b. 善通寺聖教目録の整備

当初予定した典籍の調査は終了したが、新たに典籍が出現したため、その調査・目録化が翌年度以降の課題として残された。

④ 報告書等

a. 平成 17 年度研究成果報告「古典形成の基盤としての中世資料の研究（人物・キャラクター編）付・歴史人物画像データベース」

論考 3 本のほかデータベース収載画像解説を掲載。付属 DVD のデータベースには、

延 4,740 人分の画像データベースを搭載するほか、人物情報として、芳賀矢一編『日本人名辞典』（約 45,000 件）、正宗敦夫編『地下家伝』（約 6,600 件）のデータベース及び、異称データベース（23,000 件）と Unicode 2.0 レベル（約 1 万字）の異体字情報に対応する検索システムを搭載した。

【近世文芸の表現技法〈見立て・やつし〉の総合研究】

プロジェクト代表者：山下則子

プロジェクト参加者：武井協三、新藤 茂（当館客員助教授・早稲田エクステンション・センター非常勤講師）、ボナヴェンチャー・ルベルティ（当館外国人研究員・ヴェネツィア大学教授）、加藤定彦（立教大学教授）、佐藤恵里（高知女子大学教授）、原 道生（明治大学教授）、延広眞治（帝京大学教授）、安原眞琴（立教大学助手）、金子俊之（早稲田大学大学院生）、中島次郎（当館リサーチアシスタント）

(1) 概 要

日本文学作品形成の基盤となる表現技法を明らかにするため、近世文芸に特徴的に現れる表現技法「見立」「やつし」を研究した。この研究テーマは、従来、俳諧研究・絵画研究・演劇研究といった個別分野で扱われてきた。これに総合的な視野を導入したのが、本研究プロジェクトの特色である。

研究資料として「見立浮世絵」「見立絵本」「見立番付」「やつし浮世絵」やつしの手法が見られる版本等を調査購入し、それぞれについて個別研究を進めた上で、随時打ち合わせ会をもち、「見立」「やつし」をテーマとする公開研究会を 3 回開催した。

研究会では昨年度に引き続き、浮世絵・俳諧・演劇研究に実績を有する発表者が、「見立て」「やつし」という技法を、それぞれの方向から照射して研究発表し、学際的討議を行った。「やつし」「見立」という表現技法が、時代を通じ広い分野に存在し、それぞれの定義を確立することの重要性は、すでに認識されており、その定義を確立するため、個別事象の研究とその比較検討が重要な課題であることも、すでに共通の認識であった。本年度はその観点にたって、より詳細な研究発表が行われた。また、これらを通史的に考察し、歴史的変遷を遂げた「見立」「やつし」という、日本独特の表現方法について総合的に考察する研究発表も行われた。

研究会のメンバーは、当館教授 2 名・客員助教授 1 名。外部からの研究協力者 6 名も随時研究会に参加し、その他にも 3～10 名の参加者があった。

研究会成果の中間報告として『近世文芸の表現技法〈見立て・やつし〉の総合研究プロジェクト報告書』2 号を年度末に刊行し、国内・国外の研究者や公共機関に配布した。

また、これらと並行して、平成 18 年度初頭に実施予定の公開シンポジウム・展示会についての計画を具体化し、その準備会議を開催した。また、これらの準備にも取りかかった。

なお、この研究プロジェクトは科学研究費補助金基盤研究（C）「浮世絵画像データベースによる文学的・演劇的解釈の研究－見立の手法の歴史的展開の解明－」の成果の一部を取り入れて進めている。

(2) 活動記録

① 研究会

・第 1 回（平成 17 年 8 月 2 日）

「やつしと見立の定義」

新藤 茂

参加者：加藤定彦、延広眞治、原 道生、ボナヴェンチャー・ルペルティ、安原眞琴、岩切友里子（国際浮世絵学会会員）、康志賀（韓国・麗水大学）、鈴木博子（日本学術振興会特別研究員）、武井協三、山下則子、津田真弓（当館研究機関研究員）、中村純子（当館事業課事務補佐員）、日野原健司（太田記念美術館）、深澤昌夫（宮城学院女子大学）、中島次郎

・第2回（平成17年12月26日）

「当館所蔵『役者／見立東海道五十三駅』について」

新藤 茂

参加者：佐藤恵里、加藤定彦、武井協三、山下則子、北村啓子（当館複合領域研究系助手）、鈴木博子（日本学術振興会特別研究員）、津田真弓、中島次郎

・第3回（平成17年12月27日）

「神話のヤツシとしての『義経記』『好色一代男』」

加藤定彦

参加者：金子俊之、佐藤恵里、新藤 茂、延広眞治、原 道生、武井協三、山下則子、井田太郎（当館文学資源研究系助手）、鈴木博子（日本学術振興会特別研究員）、津田真弓（当館非常勤研究員）、中島次郎

② 展示会準備連絡会議

・平成17年12月19日

参加者：武井協三、山下則子、加藤昌嘉

・平成17年12月21日

参加者：武井協三、山下則子、加藤昌嘉、井田太郎

・平成18年1月25日

参加者：武井協三、山下則子、加藤昌嘉、高島津雪

・平成18年2月21日

参加者：武井協三、山下則子、加藤昌嘉、高島津雪

・平成18年3月1日

参加者：新藤茂、山下則子

③ 報告書等

a. 『近世文芸の表現技法〈見立て・やつし〉の総合研究プロジェクト報告書』2号

体裁：A4版2段組56頁

刊行：平成18年3月30日

目次：研究会記録

「やつしと見立の定義」

新藤 茂

「当館所蔵『役者／見立東海道五十三駅』について」

新藤 茂

「神話のヤツシとしての『義経記』『好色一代男』」

加藤定彦

「近世後期見立役者絵の解釈（二）」

山下則子

3. 複合領域研究系

【総 括】

複合領域研究系においては、学際的な研究領域の開拓を目指して文学作品群の多角的な研究を行うプロジェクトと、文化資源情報の電子化及び共有化に関する研究を行うプロジェクトを、それぞれ共同研究として実施している。前者は、調査収集事業部における文献資料調査・収集事業と連動した研究（6年計画の2年目）であり、後者は、総合研究大学院大学等において行ってきた研究を総合的に発展させた研究（3年計画の2年目）である。両プロジェクトとも、当初計画に従い研究はおおむね順調に実施された。

共同研究【文化情報資源の共有化システムに関する研究】

プロジェクト代表者：安永尚志

プロジェクト参加者：伊井春樹、大友一雄、武井協三、中村康夫、山下則子、伊藤鉄也、原正一郎、野本忠司、相田 満、五島敏芳、佐藤信子、ボナヴェンチャー・ルペルティ（当館外国人研究員・ヴェネツィア大学教授）宇陀則彦（当館客員助教授・筑波大学大学院図書館情報メディア研究科助教授）、安達文夫（国立歴史民俗博物館教授）、久保正敏（国立民族学博物館教授）、山本泰則（国立民族学博物館助教授）、柴山 守（京都大学東南アジア研究所教授）、松村 敦（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科助手）、神門典子（国立情報学研究所ソフトウェア研究系教授）、及川昭文（総合研究大学院大学教授）、合庭 惇（国際日本文化研究センター教授）、早川聞多（国際日本文化研究センター教授）、山田奨治（国際日本文化研究センター助教授）、小島道裕（国立歴史民俗博物館助教授）鈴木卓治（国立歴史民俗博物館助手）、大山敬三（国立情報学研究所教授）、石上英一（東京大学史料編纂所教授）、横山伊徳（東京大学史料編纂所教授）、林 譲（東京大学史料編纂所教授）、大野順子（当館リサーチアシスタント）

(1) 概 要

① 研究目標

日本文学研究および教育に資するコンテンツ整備、システムおよびネットワークなど情報資源の整備を行い、資源共有化を目指す先導的、実用化研究を行う。

国文学研究資料館が30年に渡って蓄積してきた60余種の多様な研究情報資源の高次利活用を図る。従来、研究情報資源の組織化（データベース化）は、個々の目的に応じて、独立に形成、管理、利用を図ってきたため、総合的見地からはシステム環境の様々な側面に検討すべき課題が多い。特に、1つのキーワードで関連する複数のデータベースが自動的に検索できることなど、新たな実用的な方式を開発研究する。

一方、国内外の研究機関等が蓄積・提供する多様な文化科学研究資源（データベース）を一元的に横断または縦断検索し、関連する情報を網羅し、処理し、提供するシステムの実証の開発研究を行う。インターネットを活用し、情報構造や情報検索方式は国際標準方式に準拠した人文科学向きのインターフェースの創出を目指す。

さらに、既存の2本の柱（総合研究大学院大学共同研究プロジェクト、科学研究費基盤研

究（S））による研究成果を継承し、総合化する。人間文化研究機構本部の研究資源共有化事業へ参画し、テーマの整合性を図りつつ、主として研究面での先導的役割を担う。

② 平成 17 年度の進捗状況

館内メンバー 15 名（うち、客員教授（外国人）、客員助教授、研究機関研究員、リサーチアシスタント、各 1 名）、館外メンバー 16 名から成る総勢 31 名の共同研究として実施した。

第 2 年次は、機構本部の資源共有化事業と連動して、現在公開中のデータベースのうち、14 本のデータベースに対して、メタデータ（Dublin Core）を作成し、5 機関の接続を中心に実証実験を行った。また、国文学研究資料館を含む複数の研究機関の資源共有化の方策を検討し、各種データベースの横断利用システム環境を構築した。

とりわけ、客員助教授を中心としてメタデータ・ハーベスティングなど、新たな技術の適用性の実証を進めた。

これと並行して、日本文学コンテンツ形成も重点的に進めた。例えば、奈良絵本データベースでは、全文テキストと（翻刻を行った）、画像データとの直接対比が可能なシステム環境を構築し、実用化を進めた。一方、海外の研究者ディレクトリ、研究論文目録データベース、日本文学翻訳作品目録データベース等を整備し、日本文学のコンテンツ形成を進めた。

これらの研究は、合せて 9 回の研究会（海外における日本文学国際共同研究集会を含む）を積み重ねる中で、20 件に及ぶ研究発表を行うなど、ほぼ計画通りに推進され、着実な研究成果を得ている。

その研究成果をまとめれば、研究資源共有化の実証的研究、基盤的な情報資源の収集体制の確立とその一層の進展並びに日本文学研究コンテンツ整備、海外共同研究拠点の形成とその一層の進展、国際コラボレーション研究の推進とそのシステム環境整備の一層の推進などである。

なお、3 ヶ年計画の初年度において、国文学研究資料館内の情報資源共有化は可能であり、実現に向けた段階を具体的に設計できている。第 2 年次からは、より広範に、人文科学における研究資源共有化に視点を置き、まず国内の情報システムの接続と共有化実証実験を進め、ほぼ目的を達した。第 3 年次では、その総合的とりまとめと新たな技術としてのアウトソーシングの基本的研究を開始する。

(2) 活動記録

① 資源共有化の研究

情報資源共有化研究では 3 段階の研究を行う計画であり、本年度の目標は達成した。第 1 段階は、研究基盤の準備であり、国文学研究資料館における各種形態の異なる情報資源の資源共有技術の確立を行った。

第 2 段階は、これを基に同種の研究機関の資源共有化の方策を検討し、成果を得た。例えば、国立歴史民俗博物館、国際日本文化研究センター、国立民族学博物館、東京大学史料編纂所、大阪市立大学との情報資源共有化の進展である。基盤技術として、メタデータ（DCMES: Dublin Core Metadata Element Set）と標準情報検索プロトコル（Z39.50）による各種データベースの横断利用システム環境の構築である。

具体的には、総合研究大学院大学共同研究プロジェクト「資源共有化」の研究体制と研究成果を引継ぎ、上記研究機関とのデータベースの横断利用実証実験を推進した。

試験的に、現在研究者に公開し、評価を進めている。

今年度は、国際コラボレーション環境に主点を置き、フランス、イタリアでの研究ディレク

トリの共同構築を進めた。特に、イタリアにおいては研究ディレクトリ（研究者、研究機関、研究論文、翻訳作品等）がほぼ完成し、これを基に、I C J S（日本文学国際共同研究）研究集会を開催し、盛会であった。

第3段階は、国際コラボレーション環境による海外の研究機関との情報資源共有化の整備である。一部、欧米の主要国との間で、研究拠点形成の準備が整いつつある。

今後の主要な課題である。

② 国際コラボレーション研究

基盤の情報資源の整備では、海外の研究拠点における研究者ディレクトリ、研究論文目録データベース、翻訳作品目録データベースなどを中心とする情報資源の蓄積がさらに進んだ。これにより、ホームページの充実が促進され、収集してきたコンテンツの情報発信環境を一層整えた。

具体的な研究計画を各国と共同して進めることに留意した。今年度の国際コラボレーションとして、フランス、イタリア、台湾、韓国、インドなどとの具体的な研究が進んだ。

とくに、イタリア、フランスとの枠組が整った。イタリアを中心に昨年度までのデータベースにさらに研究者ディレクトリ、研究論文目録、翻訳作品目録を追加、改訂し、データベースが完成した。また、引続きフランスにおける研究者ディレクトリ、研究論文目録、翻訳作品目録のデータ作成を完了した。ホームページから公開を開始した。さらに、韓国、台湾、インド関連のデータ収集が進み、蓄積を進めている。つづいて、アメリカ、中国などとの研究調整に進んでいる。

③ コンテンツ整備

今年度も日本文学コンテンツ形成を重点的に進めた。例えば、奈良絵本データベースの充実に向け、全文テキストの翻刻を行い、画像ページデータとの直接対比が可能なデータベースを構築した。11作品の画像データベースと翻刻全文データベースがリンクしている。これを新奈良絵本データベースとして、当館ホームページから公開した。

また、源氏物語を中心とする定評のある古筆切、連歌関係古筆切などを購入し、画像データベース化すると同時に注釈、翻刻などのアノテーションを行う国際コラボレーション環境の構築を開始した。現在、クローズした研究者間でのアノテーション実験を行っている。

さらに、日本古典文学本文データベースでは、引続き作品のXML化を推進し、DTD、XML、SGML、KOKINルール、プレーンの各データ、並びに原本ページ画像データとの対比が可能な総合データベースを構築している。約600作品のうち、半分のXML化を行っているが、公開は一部としている。

機構本部によるデータベース調整費により、館蔵和古書画像データベース約1万点が完成した。公開準備を進めた。

④ 海外研究拠点の整備

海外研究拠点の整備では、海外の多くの学協会との協力関係が進展したことが大きい。とりわけ、AISTUGIA（Associazione Italiana per gli Studi Giapponesi：伊日研究学会）の協力は極めて大きく、アドリアーナ・ボスカロ会長（ヴェネツィア大学名誉教授）を始め多くの日本文学研究者の全面的な支援を得、ほぼ完了に近いコンテンツの蓄積を行った。公開している。

また、SFEJ（Societe Francaise des Etudes Japonaises：仏日研究学会）もセシル坂井会長（パリ第7大学教授）はじめ、コレージュ・ド・フランスなどの多くの研究機関から具

体的支援を得、コンテンツ収集が進み、研究論文目録、翻訳作品目録データベースの構築が、ほぼ完了した。現在公開している。

その他、台湾、中国、韓国、インドなどの日本学研究者との交流も進み、また国際研究集会への招聘により、研究交流を深めた。

⑤ 研究活動

今年度の研究活動は、個々の専門別研究班などによる随時の研究打合せ、及び随時のメーリングリストによる研究推進を行った。全体の研究会は、定例的に3ヶ月に1度開催した。また、関連する様々な国内外の研究会やシンポジウムに積極的に参加し、研究発表並びに報告を行い、評価を行った。

特に、今年度は先に述べた国際会議を開催し、現在までの研究成果の発表、加えて研究発表を通じての多面的な評価を行った。昨年度終了した総合研究大学院大学共同研究プロジェクト「文化科学研究分野における情報資源共有化のためのコラボレーション研究」の研究基盤や研究資源を継承し、発展させてきた。また、科学研究費補助金基盤研究（S）「国際コラボレーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信」との研究連携を強める活動を活発に行った。

これらの内、主な研究活動を以下にまとめる。

a. 国際日本文学研究集会

平成17年9月、イタリア、フィレンツェ市において、ICJS（International Collaboration for Japanese literary Studies Conference：日本文学国際共同研究 研究集会）を開催した。XXIX CONVEGNO di AISTUGIA（Associazione Italiana per gli Studi Giapponesi）会議（第29回イタリア日本研究学会会議）との共催である。

各国における日本学研究の状況を知り、今後の国際コラボレーションを進めるために、各国の第一線の研究者とのコラボレーションにより、まずこれらの基本的な情報の収集、整理、公開を目指し、各国に研究拠点を置くなどの研究を進めてきている。とくに、翻訳、注釈、引用分析などについてコラボレーション研究を推進してきた。

この研究集会では、現在のICJSプロジェクトの研究成果について、主にイタリアに関わる研究状況を評価し、まとめた。また、科学研究費補助金基盤研究（S）の最終年度としての国際評価を得ることを目的とし、会議の中での種々の討論、コメントなどを通じて、所期の目的を達した。

なお、この研究集会は、総合研究大学院大学文化科学研究科による特定教育研究経費の教員、学生参加の学術交流計画に位置づけられ、学生3名の参加を得た。

別途、ICJS「日本文学国際共同研究」研究成果報告書を作成している。

b. 研究会、研究発表会

研究会は、定例的にほぼ3ヶ月に1度開催し、合計4回開催した。また、科学研究費補助金基盤研究（S）との連携研究会も4回開催した。研究会は研究の進捗を調整、管理する役割の他、研究分担者による個別研究課題の研究発表を重視した。毎回、3本の研究発表を行い（合計12本）、活発な討論を行った。これらは、情報資源共有化に関わる研究を牽引するものとして高い評価を得ている。研究成果報告書にとりまとめた。

これらの研究会の他に、随時のミーティングを開き、研究連絡、推進、調整に当たっている。さらに、日々の研究推進に当たってはメーリングリスト、ホームページにより、緊密な研究連絡、調整を行っている。とくに、科学研究費補助金基盤研究（S）「国際コラボ

レーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信」と、コラボレーション研究を強化した。

以下に、研究発表課題をまとめる。

ア) 研究会 (1)

神門典子：大学発信 WEB 情報資源のための検索エンジン

柴山 守：地図ベースの資源共有化システム

安達文夫：人間文化研究機構における資源共有化の概要

イ) 研究会 (2)

原正一郎：データベース共有におけるデータマッピングの事例的研究

古川沙希子、松村敦、宇陀則彦：利用者の情報検索行動に関する調査について

五島敏芳：アーカイブズの検索手段データの検索イメージ

ウ) 研究会 (3)

早川聞多：米国議会図書館所蔵の浮世絵調査とデータ共有化の方法

山本泰則：資源共有化システムにおける Z39.50 プロトコル運用上の課題

鈴木卓治：史料集の検索に関するいくつかの課題について

エ) 研究会 (4)

石上英一：日本史グロッサリー DB と英仏日本古代史料解題辞典 (3 種)

大山敬三：学術統合サービスの統合：GeNii の舞台裏

及川昭文：ACI プロジェクトにおけるデータベース作成技法

c. 研究成果報告書等

- ・日本文学国際共同研究 研究集会 研究成果報告書 (ICJS: International Col-laboration for Japanese literary Studies 会議録)、2006.3
- ・共同研究「文化情報資源の共有化システムに関する研究」研究成果報告書、2006.3
- ・科学研究費基盤研究 (S) 研究成果報告書、2005 年 (平成 17 年) 度版、2006.3
- ・科学研究費基盤研究 (S) 研究成果報告書 (マレガ文庫目録、英文編)、2006.3
- ・科学研究費基盤研究 (S) 最終研究成果報告書、2006.3

なお、ホームページのアドレスは以下である。

ICJS：国際コラボレーション計画ホームページ <http://www.nijlac.jp/~kiban-s/>

日本古典文学本文データベース (試験公開) <http://www.nijlac.jp>

共同研究【開化期戯作の社会史研究】

プロジェクト代表者：谷川恵一

プロジェクト参加者：山下則子、青田寿美、北村啓子、木戸雄一、山本和明 (当館客員教授・相愛大学教授)、青木稔弥 (神戸松蔭女子学院大学教授)、奥野久美子 (別府大学講師)、加藤禎行 (山口県立大学講師)、甘露純規 (中央大学講師)、佐々木亨 (徳島文理大学教授)、佐藤至子 (椋山女学園大学助教授)、佐藤悟 (実践女子大学教授)、須田千里 (京都大学大学院教授)、高木元 (千葉大学教授)、高橋昌彦 (下関短期大学教授)、土屋礼子 (大阪市立大学大学院教授)、中丸宣明 (山梨大学助教授)、福井辰彦 (京都大学 C O E 研究員)、山田俊治 (横浜市立大学教授)、山本良 (埼玉大学助教授)、ロバート・キャンベル (東京大学大学院助教授)、小野さやか (当館リサーチアシスタント)、

(1) 概要

① 研究目標

開化期戯作を代表する書き手であった仮名垣魯文を対象に、開化期戯作の動態についての総合的研究を行う。

現時点で所在が確認できる仮名垣魯文のすべての著作について、デジタル技術を活用した書誌的調査を行い、その正確な目録と解題を作成する。これにより、今後の魯文及び幕末明治期戯作研究のよって立つ確実な基礎を確立する。

上記の基礎研究と並行して、その成果を活用した、仮名垣魯文の著述活動に関する多面的な解析を、日本文学研究はもとより、演劇史・出版史・ジャーナリズム史などを始めとした幕末明治初期を対象とした文化史研究の成果をとりこみつつ行い、変革期に展開された魯文の著述活動の全体像とその意義を解明する。

② 平成 17 年度の進捗状況

共同研究の二年次として、前年度に引き続き、以下の事項を実施した。

仮名垣魯文の著作について、所在情報を含む著作リストの整理作成と全国の図書館・文庫の調査を行い、244 点の著作を調査し、15 点を原本で、60 点をデジタル撮影により収集した。また、これと並行して、館内メンバーを中心とした月例研究会を 7 回、研究メンバー全員による研究会を 2 回開催し、著作解題作成に向けた基礎事項の調整と、個々の著作に関する研究討議を行った。これらにより、本研究プロジェクトを本格的に展開していくための準備を終えることができた。

(2) 活動記録

① 基礎データの整備

a. 明治初期新聞雑誌記事の調査

前年度に引き続き、仮名垣魯文年譜作成のため、仮名読新聞所載の魯文関係記事を抽出し、データベースソフトを活用して記録した。

② 資料の調査と収集

a. 資料の調査

前年度に引き続き、調査収集事業部における文献資料調査として、調査員を兼任する研究メンバーと館員により、資料調査を実施し、新たに魯文の著作 128 点を調査した。調査のうち、特定領域調査として実施したのは、神奈川県立図書館（新規、57 点）、群馬大学総合情報メディアセンター・新田文庫（同、115 点）、横浜中央図書館（継続、29 点）、三康図書館（同、32 点）、毎日新聞社・新屋文庫（同、1 点）である。

b. 資料の収集

ア) 原本収集

「珍猫百覧會開筵」引札など、魯文著作 17 点 46 冊を新たに購入し、魯文文献書誌データベースに記録した。

イ) デジタル収集

前年度に引き続き、調査収集事業部における特定領域の文献資料収集を実施し、『江の島鎌倉／名勝巡覧』など、魯文の著作 44 点をデジタル撮影して収集した。また、プロジェクトメンバーが所有する仮名垣魯文の原本の全文をデジタル撮影により収集し、当該作品の解題作成の用に供した。

③ 研究会の開催

月例研究会を5月～1月に各1日開催した。うち、7月に2日間、1月に3日間の日程で研究大会を行った。内容は以下の通り。

a. 平成17年5月16日 第七回例会

奥野久美子 魯文閲『報知用文』について・神林尚子 『薄緑娘白波』解題草案

b. 平成17年6月15日 第八回例会

神林尚子 『薄緑娘白波』改題草稿補遺―「鬼神のお松」関連資料など・山本和明 『松栄千代田神徳』について・谷川恵一 洋装本解題について

c. 平成17年7月17日、18日 第三回大会

小野さやか 『神社佛閣納札起原』について・佐藤至子 『仮枕巽八景』について・高木元 『英名八犬士』について・佐々木亨 和装活版本の凡例とそのモデルについて・福井辰彦 白門新柳記とその周辺・佐々木亨 『栗毛弥次馬』について・佐藤 悟 『清談青砥刃味』について・谷川恵一 洋装本解題について

d. 平成17年9月12日 第九回例会

中丸宣明 「荒磯割烹鯉魚腸」・加藤禎行 「『欧洲小説／哲烈禍福譚』について」・山本和明 「野崎左文写「稗史年代記」について」

e. 平成17年10月21日 第十回例会

宮脇真理子 「『冬楓月夕栄』について」

f. 平成17年11月16日 第十一回例会

谷川恵一 「毒婦の商法」

g. 平成18年1月7日～9日 第四回大会

加藤禎行『酌子定妓芸者の心得』・高橋昌彦『安政午秋頃痢流行記』・青木稔弥『西洋道中膝栗毛』（小林鉄次郎版）・山本和明『恋相場花王夜嵐』・木戸雄一『稻葉猴雪灯新話』・山本良『鋸山玉石異訓』・土屋礼子『西南鎮静録』・福井辰彦『新湯花かがみ』・奥野久美子『岩見重太郎實記』・小野さやか『駄洒落早指南』・佐々木亨『義経一代記図絵』・神林尚子『薄緑娘白波』・谷川恵一『血達磨一代記』

以上の研究会において、魯文の全著作解題作成に向けての研究発表を主体としつつ、書誌解題のための指針の討議を併せて行った。これらを通して、凡例（活版本・活版式草双紙の二種）の骨組みを策定し、今年度分の解題をとりまとめた。

④ ホームページの活用

研究成果を発表するためのホームページを作成し、魯文文献書誌データベース及び魯文文献所在データベースを会員専用ページに開設し、プロジェクトメンバーによる調査、解題作成に活用した。

4. アーカイブズ研究系

【総 括】

古文書から電子記録まで多様に存在するアーカイブズ資源に関する総合的研究を行い、わが国のアーカイブズの特質の解明及びその保存・活用のための技法・理論を確立することを目的として、さらにアーカイブズ情報を社会化するためのシステム構築の研究を推進することに重点を置き、次の3つの研究プロジェクトを展開している。いずれも平成16年度～21年度の6年計画の2年目であり、順調に研究を推進している。

①経営と文化に関するアーカイブズ研究、②東アジアを中心としたアーカイブズ資源研究、③アーカイブズ情報の資源化とネットワーク研究である。

大学・自治体等と連携して研究を進め、歴史学、情報学、美術史学などを専攻する大学教員等の調査・研究活動への参加を得ている。また、研究機関研究員・リサーチアシスタント等若手研究者を調査活動や研究会に参加させ、報告させるなど、その育成を積極的に図っている。

なお、『国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇』第2号を刊行し、研究成果を発表した。また、『アーカイブズニュースレター』第3、4号を発行し、研究プロジェクトの計画・研究成果を速報として公表した。

【経営と文化に関するアーカイブズ研究】

プロジェクト代表者：丑木幸男

プロジェクト参加者：高橋 実、青木 睦、山田哲好、神谷 智（愛知大学文学部助教授）、田島達也（京都市立芸術大学美術学部講師）、伊達仁美（京都造形美術大学芸術学部助教授）、藤實久美子（学習院大学史料館助手）、山崎 圭（中央大学文学部講師）、山本英二（信州大学人文学部助教授）、横山憲長（長野県短期大学教授）、小松賢治（当館リサーチアシスタント）

(1) 概 要

① 研究調査

館蔵史料のうち近世・近代の地主・名望家及び実業の経営と文化に関する史料を中核として、関連する現地に保存されている地域史料とともにアーカイブズ学的研究を進めた。具体的には信濃国高井郡東江部村・山田家文書、常陸国行方郡玉造村・大場家文書、「日本実業史博物館」準備室旧蔵資料を対象として研究を進めた。

館蔵の『史料目録 第82集』（信濃国東江部村山田庄左衛門家文書・その3）を刊行するとともに、中野市の山田家文書について、史料目録全3冊予定のうち第1冊目を中野市教育委員会が刊行したが、それに協力した。

館蔵史料の水戸藩南領の大山守文書である常陸国須田家文書と同じ大山守を務めた、常陸国行方郡玉造村の大場家文書調査を実施し、研究会を開催し、報告書作成の準備とした。

1962年に渋沢敬三が史料館へ寄贈した「日本実業史博物館」準備室旧蔵資料に関する研究を、実施した。特に「日本実業史博物館」の構想過程、コレクション形成過程から収束に至る経緯を、博物館準備室アーカイブズに含まれる渋沢敬三の博物館構想記録である「一つの提案」および収集日誌および登録台帳・領収書の検討を実施した。

② 交流・公開

昨年度山田家文書の現地調査時に発見された清朝末洪紙台湾文書をめぐって、台湾資料研究会・中京大学社会科学研究所と共催、日本財団の後援を得て黄紹恒台湾政治大学教授、呉文星台湾師範大学教授を招いて日台国際研究会を開催した。

また科研特定領域研究（A）「江戸のモノづくり」との共催で、「日本実業博物館構想」についての共同研究会を開催した。

(2) 活動記録

① 調査研究

a. 大場家文書関係調査

平成 17 年 9 月 21 日～22 日 茨城県立歴史館調査 1 人

11 月 24 日～26 日 大場家文書調査 6 人

平成 18 年 1 月 22 日～24 日 栃木県立文書館調査 1 人

平成 18 年 3 月 2 日～4 日 大場家文書調査 3 人

b. 山田家文書関係調査

平成 18 年 3 月 10 日～12 日 長野県立歴史館調査 1 人

② 研究会

a. 日台国際史料研究会（平成 17 年 4 月 28 日）

共 催：台湾資料研究会、中京大学社会科学研究所

後 援：日本財団

テーマ：「日本で発見された洪紙台湾文書のアーカイブズ学的研究」

発 表：「洪紙文書調査の経緯と今後の課題について」 高橋 実

「洪紙文書の剥離作業や紙質等について」 青木 睦

「東アジアにおけるアーカイブズネットワークについて」 安藤正人

「洪紙台湾文書の内容とその特色について」 黄紹恒（台湾政治大学教授）

「清代台湾の公文書に関する現状とその利用について」 呉文星（台湾師範大学教授）

b. 「経営と文化に関するアーカイブズ研究」研究会

・第 1 回（平成 18 年 3 月 9～10 日）

テーマ：「地域社会と豪農・名望家」

発 表：「地域社会論の現状と課題」 志村 洋

「山田家の土地集積過程について」 神谷 智

「〔中野地方における製糸女工の出稼ぎについて―下高井郡日野村「出寄留簿」の分析―」 横山憲長

「近世後期山田家の地主小作関係について」 山崎 圭

「山田家の地主経営と温泉―天保 13 年沓野村忠右衛門一件をめぐって―」

山本英二

コメント

舟橋明宏、平野哲也、渡辺尚志

・第 2 回（平成 18 年 3 月 23～24 日）

テーマ：「地域支配と文書管理」

発 表：「文書管理史研究の現状と課題」 富善一敏

「幕藩政文書管理史研究の現状と課題」 福田千鶴

「日本前近代地方行政の到達形態と文書管理システム」 吉村豊雄

「松代藩における文書の管理と伝来」	原田和彦
「萩藩における文書の保存と管理」	山崎一郎
「熊本藩の文書管理システムとその特質」	高橋 実
「鹿児島藩における系図・文書調査と記録所一元禄から正徳期を中心に」	林 匡

コメント

大友一雄 保坂裕興

・第3回（平成18年3月22日）

共 催：科研特定領域研究（A）「江戸のモノづくり」

テーマ：「復活！日本実業史博物館に向けた基盤づくり」

発 表：「日本実業史博物館構想による産業経済コレクションの総合的調査研究」成果報告
青木 睦

・第4回（平成18年3月23日）

テーマ：「『日本実業史博物館資料形成の歩みと特質』報告」

発 表：「政財界人・渋沢敬三の『実博』構想とその終焉」
青木 睦

「『実博』設立に向けた渋沢敬三「一つの提案」の成立と変移」
小松賢司

「コレクション形成過程の特質と時期区分―『購入品原簿』の分析―」

小松賢司

「『実博準備室日記』の記録者―筆跡からみた日記の性格―」

郷間大樹

「『実博』事業に関わった人々―渋沢敬三の周縁―」

柳衛悠平

「『実博』準備室の組織とその変遷」

郷間大樹

「『実博』準備室の業務とその変遷」

小松賢司

「『実博』建設計画・運営に関する経営処理について」

大谷明史

「『実博』構想と昭和15年経済文化博覧会」

青木 睦

総合討議テーマ：「今後の『実博』研究と『渋沢敬三研究』の課題と展望―連携研究

「『日本実業史博物館』資料の高度活用」への繋がり」

※これらの研究会の成果を平成18年度に報告書として刊行する予定である。

共同研究【東アジアを中心としたアーカイブズ資源研究プロジェクト】

プロジェクト代表者：安藤正人

プロジェクト参加者：渡辺浩一、加藤聖文、林 雄介（当館客員助教授）、金慶南（当館外国人研究員）、李旻龍（当館外来研究員）、竹内 桂（当館リサーチアシスタント）、吉沢佳世子（当館リサーチアシスタント）、浅井 紀（東海大学教授）、臼井佐知子（東京外国語大学教授）、岡崎 敦（九州大学教授）、蔵持重裕（立教大学教授）、栗原 純（東京女子大学教授）、須川英徳（横浜国立大学教授）、林佳世子（東京外国語大学教授）、三浦 徹（お茶ノ水女子大学教授）、高橋一樹（国立歴史民俗博物館助教授）、松田利彦（国際日本文化研究センター助教授）、永島広紀（佐賀大学文化教育学部助教授）、辻 弘範（学習院大学東洋文化研究所助手）

研究協力者：田美姫（韓国国史編纂委員会研究士）、文叔子（韓国国史編纂委員会研究士）、王振忠（中国復旦大学教授）、バネッサ・ハーディング（ロンドン大学教授）、エルキン・ジャン（トルコ・アンカラ大学教授）

(1) 概 要

本プロジェクトは、日本を含む東アジア地域を中心としたアーカイブズ資源（記録史料）を対象に、その存在形態と特質を国際的な環境のなかで明らかにするとともに、文化資源としての共有化の方法について検討することを目的としている。平成 17 年度は昨年を引き続き、韓国、中国などで調査活動を行なった。また中国上海で行なわれた国際シンポジウムに参加したほか、国内でも戦後 60 周年記念学術シンポジウムを開催した。

① 研究・調査

中国徽州黄山市において史料調査を行ったほか、韓国においても史料調査を実施した。なお、前者は科学研究費補助金基盤研究（A）「歴史的アーカイブズの多国間比較に関する研究」（研究代表者 渡辺浩一）、後者は科学研究費補助金基盤研究（A）「朝鮮総督府文書を中心とした旧植民地関係史料の共用化に関するアーカイブズ学的研究」（研究代表者 安藤正人）の成果の一部を反映したものである。また、国内においても九州地区等で関連史料調査を実施した。

② 公開・交流

ほぼ 1、2 ヶ月に 1 回、館内その他において公開研究会を開催したほか、科学研究費補助金基盤研究（A）「歴史的アーカイブズの多国間比較に関する研究」（研究代表者 渡辺浩一）の成果を一部反映させて中国上海において国際シンポジウム「多国間比較史科学に関する上海国際研究会—東アジアにおける文書資料と家族・商業および社会—」を開催し、これに参加して日中の比較史科学的研究に成果をあげた。また日本アーカイブズ学会との共催で「戦後 60 周年記念学術シンポジウム：戦争の記憶とアーカイブズ学—喪われゆく記憶の再生に向けて—」を開催し、朝日新聞・日本経済新聞紙上に論評が掲載されるなど社会的にも評価された。

(2) 活動記録

① 研究会

・第 1 回（平成 17 年 9 月 15 日）

共 催：金慶南外国人研究員共同研究会

発 表：「韓国における大統領記録の管理について」

金慶南

・第 2 回（平成 17 年 10 月 26 日）

共 催：金慶南外国人研究員共同研究会

発 表：「北海道における記録調査」

吉沢佳世子

「国立サハリ州文書館調査報告」

竹内 桂

・第 3 回（平成 17 年 11 月 20 日）

場 所：国立歴史民俗博物館

発 表：「西欧中世における文書史料と資料管理」

ブノワ＝ミシェル・トック（リル第 3 大学教授、フランス）

・第 4 回（平成 17 年 11 月 18 日）

共 催：金慶南外国人研究員共同研究会

発 表：「戦時下の朝鮮における『国民総力運動』に関する資料状況」

永島広紀

・第 5 回（平成 17 年 12 月 22 日）

共 催：金慶南外国人研究員共同研究会

発 表：「坪井幸生氏聞き取り調査報告」

竹内 桂

「日本で外国人研究員として半年間の活動」

金慶南

② 国外史料調査

- ・平成 17 年 8 月 27 日～ 31 日 中国調査 黄山市地方志辦公室、黄山学院徽州文化研究所、黄山市博物館他（高橋 実）
- ・平成 17 年 11 月 23 日～ 27 日 韓国調査国史編纂委員会、明知大学校、ソウル特別市南山図書館他（加藤聖文）

③ 学術シンポジウム

a. 「歴史的アーカイブズの多国間比較」国際シンポジウム

共 催：東京外国語大学 21 世紀 COE プログラム「史資料ハブ地域文化研究拠点」

復旦大学中国歴史地理研究所

日 付：平成 17 年 8 月 25 日～ 26 日

場 所：宝隆賓館（上海市）

参加者：56 人（2 日間の延べ人数）

テーマ：「東アジアにおける文書資料と家族・商業および社会」

プログラム

「徽州文書の発見、収集と整理」 翟屯建（黄山市地方志辦公室）

「盛宣懷档案概述」 王 宏（上海図書館）

「日本中世の商業関係文書について」 蔵持重裕（立教大学）

「清代における徽州のある小農家庭の生活」 王振忠（復旦大学）

「武士への憧れ—日本近世における百姓と武士の間」

吉田ゆり子（東京外国語大学）

「日本近世都市の法令伝達—掲げる・写す・印刷する—」 渡辺浩一

「清代蘇州の社会管理—蘇州の碑刻に対する考察」 唐力行（上海師範大学）

「1840 年代在郷における商い金紛争とその特質」 高橋 実

「明清徽州訴訟文書の来源、分類と史料価値」

阿 風（中国社会科学院歴史研究所）

b. 「戦後 60 周年記念学術シンポジウム」

共 催：日本アーカイブズ学会

日 付：平成 17 年 12 月 22 日

場 所：学習院大学

参加者：120 人

テーマ：「戦争の記憶とアーカイブズ学—喪われゆく記憶の再生に向けて—」

プログラム

挨拶 伊井春樹

挨拶 高埜利彦（日本アーカイブズ学会会長、学習院大学教授）

趣旨説明「喪われゆく記憶の再生に向けて」 安藤正人

「戦争と支配の記録をめぐる今日的課題—東アジアにおける「歴史認識」の前提—」 加藤聖文

「東南アジア占領と残された記録—記憶の記録化と戦後の課題—」 前川佳遠理

「朝鮮における植民地都市に関する記憶の記録化」 金慶南

「日本統治期台湾における庶民の記憶」 栗原 純（東京女子大学教授）

「戦争記念碑が語る内地と外地の記憶」 檜山幸夫（中京大学教授）

【アーカイブズ情報の資源化とネットワーク研究プロジェクト】

プロジェクト代表者：大友一雄

プロジェクト参加者：安永尚志、原正一郎、五島敏芳、前川佳遠理、戸森麻衣子、村越一哲（当館客員教授）、青山英幸（駿河台大学非常勤講師）、安倍尚紀（総合研究大学院大学上級研究員）、藤吉圭二（高野山大学助教授）、丸島和洋（慶應義塾大学非常勤講師）、宮崎克則（九州大学教授）、森本祥子（国立国語研究所研究員）、坂口貴弘（アーカイブズ研究系リサーチアシスタント）（研究補助）

(1) 概要

アーカイブズ情報の資源化及びその情報の提供環境とは如何にあるべきかについて、国際的な動向を踏まえながらそのあり方を実験的な取り組みを通じて提案することが、研究目的である。平成 17 年度は以下の 3 つをサブテーマとして取り組んだ。

① 記録史料群の構造化に関する研究

a. 調査・研究

今年度は、収蔵史料の内、1) 信濃国高井郡東江部村山田家文書、2) 出羽国村上郡山家村山口家文書、3) 鳥取・岡山・広島県諸村役場文書の 3 文書群を対象にその組織構造に関する研究を進め、研究成果の一部は研究会でこれを発表した。また、研究成果を踏まえデータベース化の準備を進めた。

b. 公開

この 3 文書群のうち、1) 信濃国高井郡東江部村山田家文書、2) 出羽国村上郡山家村山口家文書については、組織構造に関する研究成果を生かして史料目録を刊行した。また、データベースの公開を準備した。

② EAD（Encoded Archival Description：符号化記録史料記述）規格による情報の組織化のための研究

a. 調査・研究

収蔵記録史料の情報を広く共有し利活用できるよう、その資源化・組織化・公開に関する研究を進めた。特に日本の史料目録（検索手段）を、電子的検索手段のデファクト国際規格 EAD と XML（Extensible Markup Language）によって電子化する方法を研究した。具体的には、(1) 既刊『史料館所蔵史料目録』17 冊（B5 判 1,585 頁分）についての試験データ作成・修正、(2) このデータをもとにした EAD/XML 化のためのツール開発および加工実践、(3) EAD/XML データの Web 表現のためのスタイルシートおよび諸プログラムの研究開発、(4) EAD/XML データ構築のための支援データベース・システムの研究開発及びモニタ試験、(5) 昨年度刊行分の『史料館所蔵史料目録』のデータベース化の実験、のそれぞれを実施した。

b. 交流

総合研究大学院大学葉山高等研究センター「大学共同利用機関の成立に関する歴史資料の蒐集とわが国における巨大科学の成立史に関する研究」プロジェクトへ協力し、高エネルギー加速器研究機構史料室の資料記述データベースや、核融合科学研究所核融合アーカイブ室の核融合アーカイブズ・データベースについて調査を実施した。これらの調査の実施には、前掲葉山高等研究センター研究プロジェクトや科学研究費補助金による研究の協力を得た。

c. 公開

2 回のワークショップ「国文研 EAD/XML ワークショップ」を開催した。

それぞれ開催時までの研究成果の社会還元につとめた。取り上げたテーマは、既存アーカイブズ検索手段（いわゆる「史料目録」）データの EAD/XML 化、である。

③ 情報提供とネットワークシステムに関する研究

a. 調査・研究

全国の記録史料保存利用機関そのものの情報とそこで公開されている記録史料群についての情報を、今年度は近畿・中部地区を対象に調査・収集した。また、これまでの研究に関わり公開の研究集会「戦後の記録史料保存と現在ーアジアの記録史料保存の歩みのなかで考えるー」を開催し、研究を深めた。なお、ここでは科学研究費での研究成果も踏まえた。

b. 公開

研究情報として収集した全国の収蔵公開機関情報、収蔵公開機関が収蔵する史料群情報を「史料共有化データベース」（当館公開）を利用して公開した。

(2) 活動記録

① 調査・研究

a. 記録史料群の構造化に関する研究に関わり、信濃国高井郡東江部村山田家文書、出羽国村山郡山家村山口家文書、鳥取・岡山・広島県諸村役場文書を対象に研究を進め、研究成果の一部を発表した。

・平成 17 年 7 月 26 日

「近世幕領組合村惣代の私文書の特質ー出羽国村山郡山家村山口家文書を事例としてー」
戸森麻衣子

・平成 18 年 1 月 26 日

「信濃国山田庄左衛門家文書の構造分析」
青木 陸

・平成 18 年 23 日

「役場文書の史料群構造ー鳥取・岡山・広島県諸村役場文書を事例にー」
加藤聖文

b. 『収蔵史料目録』第 81 集、第 82 集の刊行

研究成果を踏まえデータベース化の準備を進めた。さらに研究成果に基づいて『収蔵史料目録』第 81 集、第 82 集を刊行した。

c. デファクト国際規格 EAD 検索手段の実現について

デファクト国際規格 EAD 検索手段の実現のために、『史料館所蔵史料目録』80 冊の内、B5 判 1,585 頁分のテキストデータを作成し、さらに EAD 化のための加工作業を進めた。対象目録は次の通りである。

- ・『史料館所蔵史料目録』第 1 集 遠江国榛原郡鳴村山田家文書ほか (64 頁)
- ・『史料館所蔵史料目録』第 2 集 (部分)
駿河国富士郡岩本村文書ならびに富士川交通史料写と全解題 (39 頁)
- ・『史料館所蔵史料目録』第 3 集 (表紙・目次・凡例、解題のみ) (16 頁)
- ・『史料館所蔵史料目録』第 4 集 (表紙・目次・凡例、解題のみ) (20 頁)
- ・『史料館所蔵史料目録』第 6 集 武蔵国多摩郡連光寺村富沢家文書ほか (100 頁)
- ・『史料館所蔵史料目録』第 8 集 祭魚洞文庫旧蔵水産史料 (127 頁)
- ・『史料館所蔵史料目録』第 10 集 (表紙・目次・凡例、解題のみ) (14 頁)

- ・『史料館所蔵史料目録』第13集 甲斐国山梨郡下井尻村井尻家文書ほか (199頁)
- ・『史料館所蔵史料目録』第15集 上野国館林福井家文書と全解題 (54頁)
- ・『史料館所蔵史料目録』第22集 (表紙・目次・凡例、解題のみ) (23頁)
- ・『史料館所蔵史料目録』第23集 近江国蒲生郡鏡村玉尾家文書 (140頁)
- ・『史料館所蔵史料目録』第24集 信濃国佐久郡下海瀬村土屋家文書 (202頁)
- ・『史料館所蔵史料目録』第25集 美濃国多芸郡島田村千秋家文書 (130頁)
- ・『史料館所蔵史料目録』第26集 下総国相馬郡藤代村飯田家文書 (1) (111頁)
- ・『史料館所蔵史料目録』第29集 (表紙・目次・凡例、解題のみ) (20頁)
- ・『史料館所蔵史料目録』第41集 信濃国松代伊勢町八田家文書 (1) (170頁)
- ・『史料館所蔵史料目録』第48集 信濃国松代伊勢町八田家文書 (2) (60頁)
- ・『史料館所蔵史料目録』第50集 信濃国松代伊勢町八田家文書 (3) (96頁)

② 公 開

a. 研究集会の開催

「情報提供とネットワークシステムに関する研究」による公開研究集会「戦後の記録史料保存と現在－アジアの記録史料保存の歩みのなかで考える－」を開催した。目的は戦後日本の史料保存活動をアジアの国々の取り組みに注目することで捉え直すことを目的とした。

開催日 平成18年10月27日

会 場 当館

研究報告

第1部 アジアにおける記録史料保存活動の歴史と現在

韓国における記録史料の保存と公開 李旻龍

インドネシアにおけるアーカイブズ活動の歴史と現在 前川佳遠理

日本における記録史料の保存と公開 山田哲好

第2部 日本における史料所蔵機関の現状と課題

記録史料保存公開機関の現状 大友一雄

地方文書の収集と保存－鶴岡市郷土資料館の場合－ 今野 章

大分県における史料収蔵機関の現状と課題 平井義人

2

情報事業センター

1. 調査収集事業部

【総括】

調査収集事業部では、本年度も国内外の研究者・研究機関等との緊密な協力のもとに、資料の特性を踏まえた調査と、それに基づく計画的な収集を実施した。具体的には、国内外の所蔵機関に存在する日本文学原典及びその関連資料の調査と、原本あるいは撮影による収集、及びアーカイブズ調査収集の2点である。これらについては、ほぼ年度当初に予定していたとおりの成果を挙げることができた。しかし、当館福田文庫所蔵の外国語による日本文学研究文献の調査については、解題作成の方針変更に伴って中止せざるを得ず、調査収集とは別の形態による続行を検討中である。

また、当事業部では、従来の達成の見直しに基づき、新しい研究動向に対応した調査収集活動を目指して、調査研究シンポジウム及び当館の研究者と所蔵機関及び所属研究者が連携し合いながら調査を行い、成果を共有する「連携調査」を計画・遂行した。これらについては、本年度の実績を踏まえて、改善を重ねながら継続の予定である。

なお、本年度「リプリント日本近代文学」第1期40点が刊行された。調査収集活動の成果物を社会に還元する方策として、続刊と共に、さらに広範囲の資料提供への応用が期待される。

【国内外の所蔵機関に存在する日本文学原典及びそれに関連する資料の調査・収集】

(1) 日本文学原典及びその関連資料の調査・収集

平成17年度においては、約10,000点の調査、約3,500点の収集を行った。また、研究上の必要に応じて、和刻本漢籍・準漢籍47点の原本による収集を行った。従来行ってきた地域別調査、広域調査、近代文献を対象とする特定領域調査・収集に加え、本年度は、江川文庫・立命館大学総合情報センター（白楊荘文庫）・大阪大学附属図書館（忍頂寺文庫・小野文庫）の3カ所において、連携調査を実施した。

(2) 日本古典籍資料調査データベース

本データベースは、調査カードに記録された書誌情報とカードそのものの画像を一般・学界に公開するため、構築を続けてきたものであり、平成17年度は5年目にあたる。

本年度入力した、画像データ約10,000件、書誌データ約20,000件で、既存の紙調査カードのデジタル化を完了し、約90,000件が利用に供される運びとなった。約10,000件ずつ蓄積する新規カードのデジタル化は、今後も継続する予定である。

(3) 調査収集の成果としての刊行物

『調査研究報告』26号を刊行した。

また、オンデマンド出版による、開化期戯作など明治文学の復刻である「リプリント 日本近代文学」（第1期40点）を刊行した。来年度は、第2期40点を刊行の予定である。加えて、『パリ東洋語図書館蔵 日本書籍目録－1912年以前－ CATALOGUE DU FONDS JA PON-

AISDE LA BIBLIOTHEQUE DES LANGUES ORIENTALES DE PARIS, DES ORIGINES A 1912』を刊行した。この目録には、東洋語図書館の蔵書のうち、1912年以前に日本で筆写・印刷または発行された図書・雑誌・パンフレット・一枚摺など、日仏文化交流史を偲ばせる多様な資料 1,691 点を収録する。なお、これは平成 12 年から平成 17 年に国文学研究資料館が実施した原本調査の成果であり、文献資料調査カードに基づいて、適宜整理・作成したものである。

(4) 調査収集に関する総体的な検討及び改善のための取り組み

第 1 回調査研究シンポジウム「調査収集 30 年の成果と展望」(平成 17 年 5 月 20 日)を実施し、地方在住の調査員や地方公共図書館との連携の強化、成果を電子情報として提供することの重要性など、調査収集活動に対するパネリスト 4 名の提言を、真摯に受け止めた。来年度は、シンポジウムは行わず、研究系で新たに発足する基幹研究「文学資源の総合研究」に関連する講演を予定している。また、本年度から、国文学研究資料館と他機関との研究連携の中に調査収集を含み込んだ「連携調査」を行い、従来の調査収集活動を見直して、各所蔵機関における終了予定を明確にした。

【日本文学の翻訳書・研究書の調査】

当館の福田文庫所蔵の外国語による日本文学研究文献の調査については、結果を、解題作成を含めてまとめて行くという方針に、事業部の業務の限界を超えてしまう点があるため、本年度は実施を取り止めた。本文庫の網羅的紹介は当館の重要な任務であり、調査の続行そのものは、強く望まれる。

【アーカイブズ調査・収集】

(1) 目録による史料群所在情報の調査

全国の史料保存利用機関の史料群情報、目録情報・刊行状況の調査及び収集を行い、目録類 277 冊を収集した。

(2) 史料の存在形態調査

史料存在形態情報の記述・整理、簡易的保存措置、目録作成・データベース作成、原本テキスト化及び保存と利用のための基盤整備として、信濃国高井郡東江部村山田家文書・出羽国村山郡山家村山口家文書を収録した『史料目録』第 81 集・第 82 集、『史料叢書』第 8 巻(「近世都市の組織体」、名著出版)を刊行した。

(3) 所蔵史料に関連する史料の調査及び収集資料

信濃国松代真田家文書に関連して真田宝物館の調査を行い、これまでの手書き目録を電子化してデータベースを作成し、マイクロフィルム(8 リール、DVD 版)を収集した。

『史料目録』及び『史料叢書』第 9 巻(「近世の裁判記録」)に関連して、岡山県立記録館・島根県立図書館・元松江藩家老三谷家・徳島県立文書館の調査を実施した。

(4) 現物史料の受け入れ

史料 3 件(羽原家文書、伊木寿一書簡、難民救済事業要覧)の寄贈を受け、1 件(南洋護謨拓殖株式会社旧蔵文書・書類・写真帳)を購入した。

2. 電子情報事業部

【総括】

電子情報事業部は、情報システムの有効・適切な運用を図り、研究及び事業の成果を電子情報として組織化し、データベース化を進め、研究者、大学院生、社会一般に、インターネットにより提供している。さらに、国内外の関連研究機関などとの連携を進め、情報資源共有化事業を進めている。

情報システム環境は、第七期情報システム計画（平成 17－21 年度）の初年度に当たり、今年度後半（平成 18 年 2 月 1 日）に第六期情報システムからリプレース後、現在順調に稼働している。落札業者が決まった直後から、業者を交えた膨大な事前準備作業を開始し、これらを的確に進め、約 1 ヶ月半に及ぶリプレース期間において、完全な移行を実現した。

リプレース期間の滞りはあるものの、1 年を通じて 24 時間不断の稼働を保持し、情報システムと情報資源の安定的な管理運用を行い、高い信頼を得ている。

なお、第七期情報システム（平成 18－22 年度）への移行は、政府調達に則り、仕様策定、入札、業者選定などを滞りなく進めた。インフォコム株式会社が落札し、第七期情報システムを導入することとなった。

現在 19 本のデータベースの公開を滞りなく行っている。データ追加、更新などは時機を見つつ可能な限り迅速に対応している。各データベースには、個々に責任者と担当者を置き、高信頼度のサービスを維持している。リプレースに当たって、全てのデータベースの新規情報システムへの移植が不可欠であったが、事前の十分な準備を行って、個々のデータベース毎に予定通り滞りなく完了させている。また、今年度新たに 3 種のデータベースの構築を進め、次年度から公開の体制を整えた。

一方、データベースと関連システムの保存、保守、更新など日々の管理運用業務は、情報システムチームと事業課が当たっている。

昨年度開発したデータベースサービスシステムの稼働と実運用を開始した。共同利用者の便宜の向上と高信頼度の情報提供のために、データベースサービス窓口体制を整え、さらにより高度なレファレンス業務を行う体制を整えた。加えて、データベース利用に関わる評価のための利用統計等のデータ収集と分析を行い、データベース利用環境の向上に努めた。

複合領域研究系が進める資源共有化プロジェクトと連携し、現在独立しているデータベースの一元的共有化を事業として検討、準備した。実験環境の整備、情報資源のメタデータ作成、国際標準情報検索システムの導入と調整、実証実験と評価を行った。機構本部が進める研究資源共有化事業に積極的に協力し、関連してシステム環境の整備を行った。また、データベースの現状調査や知的財産権関連調査にも協力し、これらの活動を通じて多くの研究機関との連携あるいは接続を成功させ実用化の準備を整えた。

なお、年度途中で、機構本部による共有化を目的としたデータベースの調整費の申請依頼があった。新規データベースを含む 6 件のデータベース調整費を要求し、4 件採択となり、年度末完成を目指して調整作業を行い、大量のデータの追加、更新を行った。

電子情報事業部における事業の総合評価を以下にまとめる。

年度計画に準じた全事業は滞りなく進捗し、目標を達成し、利用者からも高い評価を得た。第七期情報システムへのリプレースを滞りなく実施し、次年度に向けての新たな情報システム環境の整備とデータベースを中心とする情報資源の機能拡充、共有化整備を進め、発展性に寄与した。情報資源のホームページからの公開は、利用者、アクセス数等の増大、並びに各種意見や要望への対応により、

高い社会性と公開性を達成している。一方、情報資源の説明会や講演会、出版物等を通じて、社会へのアウトリーチに評価を得た。

【電子情報事業部の運営】

(1) 組織体制と運営

部長（安永尚志教授）を置き、副部長（原正一郎助教授）他、2チーム（情報システム、データベース）により組織された。年度当初に、昨年度までの3チームを2チームに合体した。理由は、情報システムチームとデータベースサービスチームは、関連する業務が多く、運用管理を一体化した方が効率的であることによる。作業の効率化と共に、窓口業務等の運営に情報システムをうまく取組む効果が得られ、事業目標の見通しが明確化した。

各チームにはチームリーダーを置き、21名の教員を分担配置し、チーム事業の実行責任を担った。各チームは事業課長の指揮の下、システム管理係、学術情報係が実務処理を担当した。

情報システムリプレースのための仕様策定委員会、電子情報委員会を開催し、情報システムの導入を決定した。関連して、多くの作業委員会を開催し、リプレースの準備、実行を行った。

毎月1回、定期的に部会を行い、全事業の進捗度をチェックし、計画の実施状況の把握と評価に務めた。また、開発すべきシステムの仕様等の策定、分析を行った。より専門的な事項について、専門作業部会（情報システム入替えに関する諸委員会や作業委員会、データベースサービス窓口に関する諸作業委員会等）を設け、審議し、立案し、案を部会で確認し、決定、推進した。

公開性、発展性、計画性において、高い成果を得た。

(2) 情報システムの運用管理

第六期情報システムの安定的運用管理に努め、リプレースを実施し、2月1日よりの第七期情報システムの本格稼働を実現した。管理運用体制として、情報システムチームが当たり、実務、事務処理は事業課システム管理係並びに学術情報係が担った。なお、システムの日常的な監視、操作、記録等の実務作業は、副部長、システム管理係の指示により、外注SEに分担させた。

情報システムは、ハードウェア、ソフトウェア並びにネットワークから構成される。これらの年間を通じて24時間不断の安定稼働を実施している。情報システムに関する実績評価分析は、システム稼働状況（CPU稼働率、ディスク使用率、ネットワーク・トラフィック）による。また、情報システムに蓄積された日本文学とそれに関わるアーカイブズ研究資料情報等の資源監視、プロセス監視、ユーザ管理、バックアップの定期的な運用管理を行っている。とりわけ、情報システムで稼働しているデータベースの安定的稼働に努め、館内外の研究者等に重要なデータベースの提供サービスを実施することができた。

公開性、発展性、計画性において、高い成果を得た。

(3) ネットワークシステムの運用管理

研究、教育、業務におけるネットワークシステムについて、障害に強く、かつ安定的な稼働に努め、また電子メール等へのウイルス進入に対する予防対策、緊急対応、システムの更新、パッチ等を可能な限り速やかに行い、対処し、高信頼性の運用を保持した。

システムリプレース後は、とくにセキュリティ対策に万全を期すため、厳重な接続機器の管理を個々に行った。

公開性、発展性、計画性、社会性において、高い成果を得た。

(4) 情報資源の運用管理

公開されている 19 個のデータベースの年間を通じて切れ目のない 24 時間安定的な稼働を行い、館内外の利用者の評価を得た。データベースによっては、時機を見つつデータの追加拡充を進め、また誤り等の更新を速やかに行っている。なお、これら情報資源の定期的なバックアップを行い、不測の事態に対しても十分な対応を行い、高信頼度の運用を行った。

また、年度内に機構本部によるデータベース調整費（データベース 4 本）によるデータの追加・更新作業を行い、大幅なデータを追加した。次年度から公開予定である。

① 画像・目録連携マルチメディアデータベース

新規であるが、既存データベースの再構築。約 97 万レコード（画像）。

② 欧州所在日本古書総合目録

データ追加、更新。

③ 江川文庫所蔵資料データベース

新規。25,000 レコード。

④ 古事類苑データベース

新規であるが、既存データベースの再構築。

公開性、発展性、計画性、社会性において、高い成果を得た。

(5) 情報サービスの向上

従来、データベースシステムの利用実態は単純な利用状況に限定されており、利用者の利用実態分析は進んでいなかった。そのため、サービス評価用システムと運用の整備を速やかに整える必要があり、対策を検討し、必要なシステム開発を行った。

一方、データベース利用統計は、WEB 環境のサーバシステムでの WEB ページのアクセス記録等の分析を進めた。

公開性、発展性、計画性、社会性において、高い成果を得た。

【個別事業の実績、評価】

(1) 情報システムの運用管理

情報セキュリティの高さを維持し、情報システムと情報資源の安定的管理運用を行うため、以下のように業務を行った。

① 情報システムの運営

システムのオペレーション、バージョンアップ、パッチ作業等は、情報システムチームリーダーの指揮の下、事業課システム管理係により実施した。監視と操作作業は外注 SE により行い、係において分析評価した。今年度においては、情報システムのハードウェア、ソフトウェア、オペレーションに起因する重大なシステム障害、およびネットワーク障害、さらに外部からの干渉（ハッキング等）による重大なシステム障害は発生していない。

また、ネットワーク障害は発生せず、情報セキュリティの高さを維持し、情報システムと情報資源の安定的管理運用を行うことができた。しかしながら、近年どの環境に置いても同様であるが、膨大なスパムメールの受信が続き、研究、教育、事業の運営に支障を来し、対策を迫られている。有効適切な対策はないが、可能な限り、対策を施している。

一方、端末系、プリンタ系の障害等については、事業課システム管理係および外注 SE が対応の窓口となり適切に対処した。

システム管理運用においても、システムリプレースのための事前準備、調査、分析、評価に迫られた。リプレース後も、各種情報機器の稼働と運用管理、利用者の端末等の接続と保守に

追われている。

② 共同利用の推進

共同利用等の内容、水準に関する目標を達成するための措置として、資源共有化システムの管理運用を行った。また、人間文化研究機構に属する機関のうち、国文学研究資料館、国立歴史民俗博物館、国立民族学博物館、国際日本文化研究センターとのシステム接続を実験レベルから、ほぼ実用化のためのレベルを想定した試験運用を行った。

人間文化研究機構「研究資源共有化事業」に、積極的にに関わり、その責務を果たしている。また、複合領域研究系での共同研究「文化情報資源の共有化システムに関する研究」への協力も順調に進み、研究成果の実用化の見通しを得た。

③ 第七期情報システムへの更新

政府調達の手順に則った膨大な作業を順次こなした。また、仕様書に基づく第七期情報システムのリプレースを行い、実現した。

(2) データベースサービスの向上

① 総合窓口の設置とサービス・ログシステムの構築

昨年度開発したデータベースサービスシステムに基づき、データベースサービスのための総合窓口業務の実施体制を構築し、実作業を開始した。

なお、レファレンスに関する業務も同時に検討し、具体化することができた。

② ホームページのコンテンツ分析及び問題点の指摘

ホームページ委員会との連携のもとで、館内ホームページの改良へ向けての作業を開始した。

(3) 各データベースの管理運用

① データベース全般的な稼働実績

データベースと関連システムの保存と運用管理について、今年度管理対象としたデータベースは以下のとおりである。主な管理内容を以下にまとめる。

当館ホームページ「電子資料館」で下記のデータベースを公開している。

○図書・雑誌所蔵目録 (OPAC)

○マイクロ資料・和古書目録データベース

○国文学論文目録データベース

○国書基本データベース (著作編)

○古典籍総合目録データベース

○日本古典資料調査データベース

○近代文献情報データベース (近代書誌データベース、近代画像データベース、明治期出版広告データベース)

○コーニツキ版欧州所在日本古書総合目録

○古筆切所収情報データベース*

○収蔵アーカイブズ情報データベース

○「史料所在情報・検索」システム

○史料情報共有化データベース

○日本古典文学本文データベース

○二十一集データベース

○吾妻鏡データベース*

○絵入り源氏物語データベース*

○歴史人物画像データベース*

○新奈良絵本画像データベース

○実業史絵画データベース*

＜注＞*印を付した5つのデータベースは、今年度公開を開始。

② 個々のデータベース運用管理

各データベースは、データベース基本台帳を作成し、整理し、管理している。特に、知的財産権に関わる権利関係を明確に整理した。現在、データベース台帳には、現在公開中、試験公開中、開発中を含む約40本のデータベースが準備されている。

一方、人間文化研究機構本部の要求に基づき、データベース台帳の作成に協力し、公開中データベースについてデータを提供した。さらに、機構本部が進める研究資源共有化事業においても、公開中の資源共有化用データベースの情報提供を行った。

下記に、各データベース班による運用実績をまとめる。

a. 文献情報データベース班による運営

文献情報データベース班は、日本文学に関わる典籍、文書等の目録、所在、書誌、本文、画像等の文献情報に関するデータベースを分掌とする。下記データベースと関連システムの保存と保守、管理運用を行った。研究系や他事業部が作成するデータベースと関連システムは、緊密な関係の下に、事業協力を行っている。

ア) 図書・雑誌所蔵目録(OPAC)

平成17年度アクセス件数

	17年									18年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
館外	2,964	3,997	4,045	3,498	4,433	3,249	3,688	4,527	4,958	3,721	—	—	39,080
閲覧室	1,709	2,189	2,638	2,437	4,211	3,542	2,554	3,991	2,527	1,539	—	—	27,337
館内	1,231	1,881	2,406	3,408	4,475	3,016	2,598	2,671	2,359	1,613	—	—	25,658
合計	5,904	8,067	9,089	9,343	13,119	9,807	8,840	11,189	9,844	6,873	10,834	11,016	113,925

イ) マイクロ資料・和古書目録データベース

平成17年度アクセス件数

	17年									18年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
アクセス件数	4,080	5,027	6,154	4,506	5,305	5,912	4,625	4,955	5,035	5,740	8,086	34,596	94,021
検索件数	7,804	12,005	13,140	11,342	14,478	12,343	11,211	10,944	10,515	11,539	16,337	75,216	206,874

ウ) 国書基本データベース (著作編)

平成 17 年度アクセス件数

	17 年										18 年		
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
アクセス件数	6,358	8,283	8,194	7,460	6,685	7,464	8,645	8,600	7,669	7,353	9,126	5,993	91,830
検索件数	19,147	17,985	23,822	23,026	120,433	23,344	26,376	25,515	24,570	34,762	30,584	21,327	390,891

エ) 古典籍総合目録データベース

平成 17 年度アクセス件数

	17 年										18 年		
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
アクセス件数	4,046	5,300	5,259	4,542	4,987	5,662	5,523	5,999	4,613	4,236	8,123	6,148	64,438
検索件数	4,998	7,114	7,647	7,898	7,202	8,105	7,104	7,592	5,657	5,256	7,792	8,223	84,588

オ) 日本古典資料調査データベース

平成 17 年度アクセス件数

	17 年										18 年		
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
訪問者数	401	559	524	552	461	387	438	527	536	596	470	411	5,862
ページ閲覧数	1,035	1,478	1,485	1,610	1,429	1,035	1,105	1,258	1,308	1,683	1,183	1,149	15,758

カ) 近代文献情報データベース (近代書誌データベース、近代画像データベース、明治期出版広告データベース)

平成 17 年度アクセス件数

	17 年										18 年		
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
訪問者数	544	613	523	589	402	378	436	483	410	528	328	301	5,435
ページ閲覧数	1,204	1,404	1,230	1,059	879	784	920	1,038	924	1,389	695	665	12,191

キ) 古筆切所収情報データベース

平成 17 年度アクセス件数

	17 年										18 年		
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
延べ訪問者数	—	—	—	—	346	228	179	146	273	376	136	102	1,786

ク) 日本古典文学本文データベース

平成 17 年度アクセス件数

	17 年										18 年		
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
新規登録者数	98	99	65	71	49	58	85	74	49	0	34	33	715
アクセス件数	3,187	4,304	4,086	3,820	2,755	3,302	4,342	4,915	3,716	3,693	2,699	2,495	43,314

- ケ) 二十一代集データベース
- コ) 新奈良絵本画像データベース
- サ) 吾妻鏡データベース
- シ) 絵入り源氏物語データベース
- ス) 歴史人物画像データベース

b. 研究情報データベース班による運営

研究情報データベース班は、日本文学に関わる論文目録、研究者ディレクトリ、研究用語、作者・作品・人物等研究情報に関するデータベースを分掌する。下記データベースと関連システムの保存保守、管理運用を行った。研究系や他事業部が作成するデータベースと関連システムは、緊密な関係の下に、事業協力を行った。

日本文学に関する研究情報を網羅した平成 15 年度版の国文学年鑑の刊行を行った。また、平成 16 年度版の原稿作成、編集作業を行った。

・『国文学年鑑』平成 15 年版統計

発行日 平成 16 年 8 月 10 日

発行所 株式会社 至文堂

総頁数 989 頁

販売価格 14,000 円

発行部数 複製部数 750 部

内訳

雑誌・紀要・論文集所載論文件数	12,476 件
特集号一覧件数	292 件
学会一覧件数	44 件
学会研究発表一覧件数	1,101 件
新指定文化財数	19 件
文部科学省科学研究費補助金等交付数	875 件
受賞一覧件数	92 件
計報件数	31 件
単行本一覧件数	3,249 件
収載雑誌紀要一覧件数	1,188 件
発行所一覧件数	1,116 件
翻刻複製作品数	743 件
執筆者数	9,987 件

ア) 国文学論文目録データベース

イ) コーニツキ版欧州所在日本古書総合目録

c. 史料データベース班による運営

史料データベース班は、記録史料の所在・分類・性質等、史料情報に関するデータベースの作成支援、管理運用等を行う。下記データベースと関連システムの保存と保守、管理運用を行った。研究系や他事業部が作成するデータベースと関連システムは、緊密な関係の下に、事業協力を行っている。

ア) 収蔵アーカイブズ情報データベース

イ) 「史料所在情報・検索」システム

ウ) 史料情報共有化データベース

エ) 実業史絵画データベース

(4) 新規データベースの準備

研究系、事業部において準備中であった下記4本のデータベースについて、次年度からの公開のための準備を行った。

公開性、発展性、計画性、社会性において、高い成果を得た。

- ① 画像・目録連携マルチメディアデータベース
- ② 欧州所在日本古典総合目録データベース
- ③ 江川文庫所蔵資料データベース
- ④ 古事類苑データベース

付表1 当館ホームページ「電子資料館」から公開しているデータベース

書 ・ 目 録	図書・雑誌所蔵目録 (OPAC)	当館所蔵の明治期以降の図書、雑誌 (逐次刊行物) の目録データベース。図書約 77,000 件、雑誌約 5,200 タイトル。
	マイクロ資料・和古書目録データベース	当館所蔵のマイクロ試料 (当館がマイクロフィルムに撮影、収集した国内外の大学・図書館・文庫等所蔵の写本・版本等) と和古書 (写本・版本等) の目録データベース。マイクロ資料約 192,000 件、和古書約 12,000 件。
	国文学論文目録データベース	国文学関係論文 (大正元年～平成 15 年) の目録データベース。約 405,000 件。
	図書基本データベース (著作編)	「古典籍総合目録データベース」の著作及び著者典拠ファイルを収録した著作 (作品) 情報データベース (『国書総合目録』『古典籍総合目録』(岩波書店刊) 所収の著作とその後追加した著作を収録)。著作約 442,000 件、著者約 67,000 件。
	古典籍総合目録データベース	日本古典籍 (江戸時代末までに著された写本・版本等) の書誌・所在情報データベース (国内外の大学・図書館・文庫等の所蔵目録から主として『国書総合目録』未収録のデータを採録)。約 209,000 件。
	日本古典資料調査データベース	当館が 30 年にわたり調査してきた国内外の大学・図書館・文庫等所蔵の写本・版本等の「文献資料調査カード」から主要な書誌情報を抽出したデータベース (調査カード画像データベースも参照可能)。約 90,000 件。
	近代文献情報データベース	「近代書誌データベース」「近代画像データベース」及び「明治期出版広告データベース」(平成 10 年度から開始した、明治期以降の国文学を中心とした文献資料の調査・収集の成果を公開)。書誌約 11,000 件、画像約 400 件、出版広告約 8,100 件。
	コーニツキー版 欧州所在日本古書総合目録	欧州各国の図書館・美術館・博物館等所蔵の「日本の和装本」の書誌・所在情報データベース (ケンブリッジ大学のピーター・コーニツキー教授が収集・整理されたデータを順次追加・更新)。約 4,900 件。
	古筆切所収情報データベース	『古筆切提要』以後に影印刊行された古筆切類の所収情報データベース。約 11,000 件。
	収蔵アーカイブズ情報データベース	当館収蔵の史料群 (645 件) の概要データベース及び史料目録データベース
	「史料所在情報・検索」システム (試験公開)	国内各地に伝来する史料群の所在・概要情報データベース (詳細版は利用登録制)
	史料情報共有化データベース	国内外で公開されている史料群 (アーカイブズ) 情報のデータベース (史料を公開する各収蔵機関による共同構築)
	日本古典文学本文データベース (試験公開)	『日本古典文学大系』(旧版、岩波書店刊) の全作品 (100 巻 560 作品) の本文 (テキスト) データベース (利用登録制)
	二十一代集データベース	原本テキストデータベース (当館所蔵の正保版本を底本とし、詞書・作者・和歌・左注・メモ等からの検索が可能)
	吾妻鏡データベース	原本テキストデータベース (当館所蔵の寛永 3 年版本を底本とし、ブラウザ機能による全文検索が可能)
	絵入り源氏物語データベース	原本テキストデータベース (当館所蔵の承応 3 年版本を底本とし、ブラウザ機能による全文検索が可能)
	歴史人物画像データベース	古代から近世までの歴史上の人物約 650 名の画像データベース (当館所蔵の和古書から採録)
	新奈良絵本画像データベース	当館所蔵の奈良絵本 (11 本) の原本画像データベース (翻刻付)
	実業史絵画データベース	日本実業史博物館設立準備室旧蔵絵画データベース

3. 普及・連携活動事業部

【総括】

普及・連携活動事業部は、講演、展示、シンポジウム、セミナー等の各種イベントを通じて、館が築いてきた学問的成果を公開して広く社会にアクセスし、社会貢献を具体的に実現することを任務とする。その際、国際的連携を多様に行う館の取り組みも盛り込み、その社会貢献はそのまま国際社会への貢献の姿をも持つ。

平成 17 年度に実施した普及・連携活動事業部の事業は、以下に示すとおり個々の目的を十分に達成することができた。さらに今後、年度の進行によって期待されるもろもろの研究成果を確実に受け止め、総体として館の価値の発信を充実させ、整備していく予定である。

【連続講演】

(1) 概要

平成 17 年は古今集撰集 1100 年、新古今集撰集 800 年という記念すべき年であることにあわせ、実施計画に基づき、「古今集から新古今集へ」というテーマで、当館前館長松野陽一名誉教授による連続講演を行った。古今集から新古今集までの和歌史の流れを詳細にたどる連続講演で、一般向けでありながら学問的内容の講演であり、受講者の満足度はきわめて高いものであった。なお、この講演内容は、笠間書院から『古典ルネッサンス』のシリーズとして刊行される予定である。

受講者募集の方法は、例年どおり、定員 120 名で事前申込制としたが、応募者は 330 名近くあり抽選の結果 200 名に絞った。現状の施設では最大 200 名しか収容できないためであるが、立川移転後はこの問題は解決されると思われる。

(2) 活動記録

テーマ：古今集から新古今集へ

第 1 回	10 月 18 日	和歌史の中の古今集—仮名で書かれた「やまとうた」—	175 名
第 2 回	11 月 1 日	勅撰和歌集のテクスチャー—文芸構造体としての部立と配列—	174 名
第 3 回	11 月 15 日	小勅撰集と大組題百首—何を詠むか、如何に詠むか—	160 名
第 4 回	11 月 29 日	歌学と歌論—俊成の和歌史観と方法—	166 名
第 5 回	12 月 13 日	新しい古今集—帝王と歌臣—	133 名

場 所：当館大会議室

【シンポジウム】

(1) 概要

春の特別展示「鉄心斎文庫の伊勢物語コレクション」と連携した形で、「展開する伊勢物語—注釈と絵巻—」と題して開催した。3 人のパネリストは、おのおの中世近世の広く学芸に渉る影響、また絵画との交渉を跡づけることができ、また討議では活発な質疑がなされた。多くの入場者に恵まれ、アンケート結果も好評であった。これは最新の研究動向を広く一般の古典文学愛好

者に披露し、その理解関心を深める所期の目的を十分に果たした。なお、シンポジウムの内容は『展開する伊勢物語』（平成 17 年度春季特別展及びシンポジウム報告集）として刊行する。

多数の参加者に恵まれたが、今後の課題として、一般向けか研究者向けか、性格を明確にする必要がある。

(2) 活動記録

テーマ：「展開する伊勢物語—注釈と絵巻—」

日 時：平成 17 年 5 月 13 日（金）13 時 30 分～17 時 00 分

場 所：当館大会議室

パネリストと題目：

「古注釈とその周縁—伊勢物語の内と外—」 山本登朗（関西大学教授）

「伊勢物語絵巻の世界—中世から近世へ—」 泉 紀子（羽衣国際大学教授）

「古注釈の呪縛—業平像の変貌—」 大谷俊太（奈良女子大学教授）

参加者：177 名

【歴博・国文研共同フォーラム】

(1) 概 要

人間文化研究機構連携展示「うたのちから」の一環として歴博・国文研共同フォーラム「和歌と貴族の世界」を開催した。当館から松村副館長、小川助教授、国立歴史民俗博物館から吉岡副館長、井原教授の基調報告を行った後、吉岡副館長の司会による共同討議に入り、聴衆からの質問を受け止める形で、歌合を巡る制度的展開や、中世期における勅撰集の歴史的役割などについて、報告者間の討議が活発に行われた。歴史と文学の双方の側から初めて学際的な問題提起と掘り下げが行われたという意味で、第 1 回の連携フォーラムとして極めて有意義であり、しかも好評裏に終わったという点で成果の多い催しだった。

問題点としては、PR が必ずしも十分でなく、会場を満席にできなかったが、今後はさらに力を入れた広報活動に取り組む。

(2) 活動記録

テーマ：「和歌と貴族の世界」

日 時：平成 17 年 11 月 3 日（木・祝）

場 所：東商ホール

パネリストと題目：

「王朝和歌の転移—古今集から新古今集へ—」 松村雄二（当館副館長）

「平安時代中期の国家儀礼と和歌」 吉岡眞之（国立歴史民俗博物館副館長）

「乱世の宮廷と歌人たち—南朝を中心に—」 小川剛生（当館助教授）

「中世儀礼における漢詩・管弦・和歌」 井原今朝男（国立歴史民俗博物館教授）

入場者：296 名

【通常展示、特別展示】

(1) 概 要

専門の研究者・学生、及び一般の文学愛好者を対象として、当館が収集した古典籍や他機関所蔵の古典籍を、テーマに沿って随時公開し、研究・教育の向上と、一般への文学の普及を図ることを目的として、以下の展示を開催した。いずれの展示においても、例年を上回る入場者に恵ま

れ、アンケートでも好評を得た。

① 春季特別展「鉄心斎文庫の伊勢物語コレクション」

鉄心斎文庫伊勢物語文華館が所蔵する『伊勢物語』関係資料約 1,000 点の中からとりわけ貴重な作品を精選し、広く公開することを目的として開催した。鎌倉期の古写本、稀少な版本・注釈書をはじめ、室町-江戸期の絵巻・画帖などに至るまで、伊勢物語享受史を一望し得る作品約 50 点を展示した。品川ケーブルテレビ等でも取りあげられ、1,400 名を越える入場者を得た。また、これに併せ、シンポジウム「展開する伊勢物語—注釈と絵巻—」も開催した。なお、本展示とシンポジウムは、中古文学会・中世文学会および鉄心斎文庫伊勢物語文華館の後援を得て行われた。

なお、当館の展示室は、狭小で空調も無く、大人数の入場者に対応しきれない状態であるが、立川移転後には改善の予定である。この伊勢物語展は、移転後、再度鉄心斎文庫の協力の下、大規模な開催を企画している。

② 併設展示「中世文学会創設 50 周年記念 国文学研究資料館の貴重書」

当館所蔵の古典籍を広く公開することを目的とし、同時期に開催した中世文学会創設 50 周年記念大会（青山学院大学）に併せて開催した。上記「鉄心斎文庫の伊勢物語コレクション」の併設展である。近年当館所蔵となった中世文学関係の古典籍を詳細な解説とともに紹介した（夫木和歌抄、室町中期連歌学書、撰集抄、千字文註等）。今後も、研究・教育に供するよう、新収資料の公開を進めていく予定である。

③ 人間文化研究機構連携展示「うたのちから—古今集・新古今集の世界—」

古今集撰集 1100 年・新古今集撰集 800 年を記念する企画で、国立歴史民俗博物館と連携し、両館所蔵の古典籍を広く公開することを目的として開催した。国立歴史民俗博物館の企画展「うたのちから—和歌の時代史—」と同時期開催である。古今集新古今集関係の資料としては、当館所蔵の初雁文庫・懐風弄月文庫・久松氏寄託資料、及び国立歴史民俗博物館所蔵の高松宮家伝来禁裏本などがあり、これらを相互に貸し借りしつつ、資料の整理・図録の刊行・展示の構成・広報・フォーラムの開催などにおいて、両館連携して研究と事業を進めた。また、本展示に併せ、歴博・国文研共同フォーラム「和歌と貴族の世界」を開催した。本展示は、和歌文学会の後援を得て行われた。

なお、当館展示室は重要文化財を展示できる環境にないため、出品に制限があったが、立川移転後には十全な設備を用意する予定である。

④ 通常展示「和書のさまざま—書誌学入門—」

本の装訂・書型・料紙などを当館所蔵古典籍を用いて解説したもので、書誌学の基礎知識をわかりやすく説き、研究・教育に裨益することを目的として開催する。昭和 59 年以来恒例となっている企画で、毎年内容の更新を行っている。日本古典籍講習会に併せ開催する。なお、この展示内容を教材 DVD として公開する企画が進行中である。

なお、長期間の展示であるため、貴重書を出品できない等の問題がある。

(2) 活動記録

① 春季特別展「鉄心斎文庫の伊勢物語コレクション」

平成 17 年 5 月 13 日（金）～ 5 月 30 日（月） 15 日間 1,421 名

② 併設展示「中世文学会創設 50 周年記念 国文学研究資料館の貴重書」

平成 17 年 5 月 13 日（金）～ 5 月 30 日（月） 15 日間 1,421 名

③ 人間文化研究機構連携展示「うたのちから—古今集・新古今集の世界—」

平成 17 年 10 月 28 日（金）～ 11 月 18 日（金） 17 日間 1,228 名
ギャラリートーク（展示解説）

平成 17 年 10 月 31 日（月） 15 時 00 分～ 15 時 40 分 田渕句美子

平成 17 年 11 月 8 日（火） 15 時 00 分～ 15 時 40 分 小川剛生

平成 17 年 11 月 10 日（木） 15 時 00 分～ 15 時 40 分 落合博志

平成 17 年 11 月 16 日（水） 15 時 00 分～ 15 時 40 分 久保木秀夫

④ 通常展示「和書のさまざま―書誌学入門―」

平成 18 年 1 月 18 日（水）～ 3 月 24 日（金） 47 日間 644 名

【研修等】

(1) アーカイブズ・カレッジ

① 概 要

長期コースは、前期 7 月 4 日（月）から 4 週間、後期 8 月 29 日（月）から 4 週間の日程で当館において開催し、昨年度からの継続履修生（複数年度分割履修生）6 名を含め合計 48 名が履修した。うち史料保存機関職員や大学教職員などの社会人は 12 名、大学院生は 36 名であった。定員は 35 名だが、国内には類似の研修会がなく本カレッジへの参加希望が強いため、申込者全員を受け入れることにしたものである。なお、今年度、長期コースの全 6 科目を修了した履修生は 36 名で、うち 35 名が修了論文を提出し、34 名が審査に合格した。次に短期コースは 11 月 7 日（月）～ 11 月 12 日（土）に石川県立歴史博物館（金沢市）で開催され、34 名が履修した。うち史料保存機関職員や大学教職員などの社会人は 29 名、大学院生は 5 名であった。今年度短期コース履修生に対するアンケート調査によると、授業科目の構成や授業の方法については、「かなり適切」とするものが 5～6 割で、「どちらかといえば適切」とした者を加えると参加者の 9 割が満足しており、高い評価を得ている。一方で、広報については「かなり適切」が 3 割余りしかなく、15 %が「改善の余地がある」としている。これらの批判については来年度以降の運営改善にいかしたいと考えている。

なお、カリキュラム等の改善を図るための研究会は、アーカイブズ研究系教員を中心に 5 回開催した。

② 活動記録

a. 長期コース

開催日：平成 17 年 7 月 4 日（月）～ 7 月 29 日（金）

平成 17 年 8 月 29 日（月）～ 9 月 22 日（木）

場 所：当館ほか

参加者：48 名

b. 短期コース

開催日：平成 17 年 11 月 7 日（月）～ 18 日（金）

場所：石川県立歴史博物館ほか

参加者：34 名

(2) 日本古典籍講習会

① 概 要

日本の古典籍を所蔵する機関の図書館員等を対象に、3 日間にわたり全 14 コマからなる講習を実施した。今年度は国立国会図書館との共催で開催した。日本各地及び世界各国には、古

典籍を所蔵しながらもその整理・保存・目録化が正しい形で進められていない機関が多くある。この講習会は、古典籍を整理・保存・目録化するための基礎知識を講義し、各機関が所蔵目録を共有化できるよう情報を提供することを目的とする。今年度の応募者は、大学図書館・公立図書館などから 79 名あったが、当館所蔵の古典籍を用いた実習を行うため、定員 32 名に絞らねばならなかった。本講習会では、当館教員や図書館員が書誌学や目録作成方法などについての講義・実習を行うとともに、1 日は国立国会図書館を会場にして、古典籍の管理方法や電子化についての講義を行った。

実習のみならず、各講義においても古典籍を提示しながらの説明が多く、大変わかりやすいと好評であった。運営の方法については、講義が時間どおり終わらない等若干の反省点を今後改善していく。本講習会によって、古典籍取り扱いの基礎知識を習得し、知識と情報の共有化を図るためのネットワークを築くことができよう。

② 活動記録

開催日：平成 18 年 1 月 18 日（水）～ 20 日（金）

場 所：当館（1 月 18 日～ 20 日）、国立国会図書館（1 月 19 日）

参加者：32 名

【国際研究集会・国際シンポジウム】

(1) 国際日本文学研究集会

① 概 要

第 29 回国際日本文学研究集会を実施するため、国際日本文学研究集会委員会を 2 回開催し、実施計画の策定、招待研究発表者の決定、応募研究発表者の採択などを行った。「海外から見た日本文学の研究－内と外をのりこえて－」をテーマとし、第 29 回国際日本文学研究集会を 2 日間にわたって開催した。研究発表 11 件、講演 1 件が行われ、水準の高いものが多かった。日本学術振興会からの助成を獲得し、研究発表の内 5 件は、海外からの招待研究発表とすることができた。発表後に行われた討議では、国内と海外における日本文学研究の条件の違い、研究方法の相違などについて重要な指摘がなされた。今回は新たにポスター・セッションという、若手に発表の機会をあたえるセッションを設定した。6 名の若手研究者の発表が行われ、短時間のなかで、プレゼンテーションの方法を工夫した発表が続き、内容的にも萌芽的研究の水準をこえるものが多かった。参加した中堅・泰斗の研究者からも高い評価の声が複数聞かれたことは特筆しておくべきであろう。ただ、1 人 10 分という持ち時間は、プログラムを工夫してももう少し時間を長くすべきだとの意見があった。年度末に『第 29 回国際日本文学研究集会会議録』（200 頁）を刊行した。

② 活動記録

開催日：平成 17 年 11 月 17 日（木）～ 18 日（金）

142 名（内訳 日本 97 名、外国籍 45 名）

場 所：大会議室

講 演：「皆川淇園（1734-1807）の『淇園答要』と『名嶠』の関係について」

ウリエム・ヤン・ボート

研究発表：「『大江千里集』の序文から見た「内」と「外」」

陳斐寧

「平安朝の和文日記と漢文日記の関係について」

エドワード・ケーメンス

「日本文学の発見：俳諧と滑稽の境地一周作人の場合」

顧偉良

「日本アヴァンギャルド詩運動におけるリトルマガジン—セルビア文学との比較
考察—」 山崎佳代子

「力としての病：梶井基次郎の作品における結核」 スティーブン・ドッド

「馬琴読本における予兆・ト占」 黄智暉

「文学における近世：タームとメソッド—読本における俗語的表現を視点として
—」 周以量

「近世軍書の研究に対するアメリカ日本研究の有効性」 井上泰至

「海外における日本近世文学の書誌学的及び文献学的な研究の可能性—実態の困
難さとそれを乗り越えるために—」 ラウラ・モレッティ

「『佳人』から『女志士』へ—宮崎夢柳の『鬼歌々』『芒の一と叢』を中心に—」
湯薇薇

「近世日本文学における『他者』」 マーク・ウイリアムス

ポスターセッション：

「古典和歌における夕暮と生命の衰微—中国文学との相違を含めて—」 金 中

「中日の古代の伝説における川や橋の境界」 樊 穎

「能楽の魅力—表記から探る対話について—」 谷川淳子

「中国語圏における俳句受容の現状と問題点」 沈美雪

「近代短歌とロシア人の関心—与謝野晶子の例—」 アイダ・スレイメノヴァ

「野口米次郎の英国における芭蕉の紹介」 堀まどか

4. 情報資料サービス事業部

【総括】

館内に新たに情報図書館委員会を設置し、図書館事業と電子情報事業の連携を図り、事業の方向性を検討する体制を組織した。懸案である所蔵資料の画像配信については、委員会のワーキンググループで検討並びに実験を行った。画像化実施に向けては、今年度の実験結果をもとに来年度以降継続し、配信方法を含めた検討を進める予定である。

利用サービス面では、8月から閲覧時間・複写受付時間の延長を実施、12月からセルフコピーサービスを導入するなど、現環境で対応可能な利用サービスの向上に努めた。

また、歴史資料閲覧室の受付を一本化したのが、これにより閲覧利用の動線に支障が出ており、課題として残った。

資料収集面では、研究の基礎となる文献資料の積極的収集を図り、館の研究・事業計画に沿った古典籍原本を購入する一方、広く寄贈、寄託資料の受け入れを進めた。書庫の保管スペースは既に限界にきているが、立川移転までは資料保管環境確保に努めたい。

また、図書館業務システムの更新を行った。

その他、調査収集とマイクロ資料目録作成とのタイムラグ縮小に努め、文書・記録類の保存・修復措置などの継続的事業を計画に沿って進めた。

【図書資料の収集】

(1) 概要

所蔵資料全体を考慮しての収集計画に加え、館として特色あるコレクションを形成し、広く普及利用を図っていく方針を確認し、寄贈、寄託資料についても積極的に受け入れ、蔵書の充実に努めた。今後はこれらのコレクションの存在を積極的にアピールし、利用を広めていくことが懸案とされている。

(2) 活動記録

① 図書資料の体系的な収集に努めた。受入統計は以下のとおりである。

資料1 図書資料受入統計

資料種別		日本文学関係				歴史関係			
		点数等		冊数等		点数等		冊数等	
		平成17年度	累積	平成17年度	累積	平成17年度	累積	平成17年度	累積
収集マイクロ資料	マイクロフィルム	2,744点	174,985点	502リール	39,625リール	8件	180件	331リール	5,439リール
	マイクロフロッピー	18点	16,667点	37枚	57,358枚	—	—	—	—
	紙焼写真本	—	—	7,996枚	74,131冊	—	—	54冊	10,563冊
図書	写本・版本	631点	9,240点	2,167冊	33,113冊	—	—	—	—
	活字本・影印本等	—	—	2,678冊	84,660冊	—	—	2,884冊	59,002冊
	逐次刊行物	1,288誌	5,167誌	3,022冊	159,875冊	—	—	1,685冊	58,611冊
所蔵史料		—	—	—	—	* 4件	407件		約500,000点
寄託資料・寄託史料		3件 185点	5件 1,143点	303冊	4,609冊	** - 1	18件		7,304点

* 「難民救済事業要覧」「羽原家文書」「伊木寿一書簡」3件が寄贈された。
「松浦家文書」が寄託解除された。

- ② 7件 974点の寄贈資料、ならびに4件 189点の寄託資料の受け入れを決定した。(日常的な郵送による寄贈を除く。)

資料2 主な寄贈・寄託資料

申込種別		所蔵者	内容	点数	区分
寄贈	新規	松野 陽一	松野陽一蔵書	358点 746冊	国文
寄贈	新規	笹淵 田鶴子	『うつほ物語稿本』	50冊	国文
寄贈	新規	坂田 穂好	古筆切	3点	国文
寄贈	新規	羽原 英雄	羽原家文書	416件	歴史
寄贈	新規	北原 進	伊木寿一書簡	1件	歴史
寄贈	新規	小松 明	和歌短冊(伝頼山陽筆ほか)	70点	国文
寄贈 一部購入	新規	長谷 和気子	長谷章久旧蔵書	和古書 125点・ネガ/ スライド類一括	国文
寄託	新規	松野 陽一	松野陽一蔵書	90点 207点	国文
寄託	新規	坂田 穂好	古筆切	95点	国文
寄託	追加	徳川 陽子	『御当主、田安府御系図』ほか	4点	国文

- ③ 源氏物語に関する資料を、近世以前の原本から近現代の口語訳やアニメーションに至るまで幅広く収集し、将来「源氏文庫」として公開する計画をたて、今年度は原本4点を購入した。

資料3 源氏文庫購入資料

書名	備考	数量
源氏物語和歌巻	伝伏見天皇写	1軸
源氏小鏡	近世初期伝後柏原院内侍写	2冊
源氏物語私注	写	1冊
源氏七論	享保年間実草庵写	1冊

【図書資料の受入・整理】

(1) 概要

定常的な図書資料の受入・整理のほか、当館名誉教授福田秀一氏による日本文学の海外出版図書約3,000点(コピーを含む)の受入準備を行った。また、日本実業史博物館準備室旧蔵資料(アーカイブズの部)1,251点の目録を整備した。

マイクロ資料・和古書・古典籍総合目録の目録作成に関しては、データベースの更新を進めるほか、普及・連携活動事業部による日本古典籍講習会で、古典籍の整理方法について、当館データベースを利用した普及を図っている。

(2) 活動記録

以下の活動を行った。

① 貴重書・特別コレクションの指定

新たに貴重書6点、特別コレクション1件を指定した。

資料 4 新指定貴重書・特別コレクション

項目	請求記号・文庫番号	書名・コレクション名	備 考
貴重書	99 : 112	成唯識論述記	春日版（鎌倉初期刊） 1 冊
	99 : 113	絵本時世粧	享和 2 年刊 2 冊
	99 : 114	千字文註	五山版（南北朝時代応安頃刊） 1 冊
	99 : 115	夫木和歌抄	後小松院筆 1 軸 巻の一春部一
	99 : 116	名山図譜	文化元年刊 3 冊
	99 : 117	松平楽翁六十音和歌	文化十四年楽翁識 1 軸
ク特別 シヨコ ンレ	92	懐風弄月文庫 （後藤重郎氏旧蔵書追加 指定）	新古今和歌集研究で知られる国文学者後藤重郎氏の新古今和歌集を中心としたコレクション。昨年度に引き続き受け入れた 45 点 100 冊を追加指定し、コレクション名称を決定。

② 資料の整理・目録作成

a. マイクロ資料目録作成

- ・書誌データ作成 約 8,000 件
- ・書誌データ登録 約 6,400 件
- ・データベース移植時の未コントロール分処理 約 5,000 件
- ・その他（文献資料収集調査事業との調整等）

資料5 マイクロ資料目録データベース登録一覧

文庫番号	所蔵者・文庫名	サービス区分	リール番号	件数
6	筑波大学附属図書館	B'	342 : 409	59
20	宮内庁書陵部	A'	594 : 630	122
26	酒田市光丘文庫	A'	393 : 439	369
33	東洋文庫	E	紙焼写真	33
92	上田市立図書館（花月文庫）	A	377 : 390	88
93	上田市立図書館（花春文庫）	A	125 : 134	30
214	西尾市岩瀬文庫	B'	343 : 388	142
222	三原市立図書館	A	155 : 176	46
238	法政大学能楽研究所（鴻山文庫）	D	174 : 205	979
255	新城ふるさと情報館（牧野文庫）	A	305 : 369	393
258	臼杵市立図書館	A	371 : 396	102
260	東京都立中央図書館（東京誌料）	B'	67 : 86	40
270	東京都立中央図書館（特別買上文庫）	B'	11 : 21	97
272	弘前市立図書館	A'	251 : 267	98
278	大須文庫	B'	80 : 86	256
304	福井市立図書館	A'	129 : 139	64
312	正教蔵文庫	C	268 : 295	137
316	芦庵文庫	B'	26 : 28	256
321	鎌田共済会図書館	B	111 : 122	78
322	四国大学附属図書館（凌霄文庫）	D	83 : 105	181
324	新潟大学附属図書館（佐野文庫）	B'	194 : 239	493
326	名古屋博物館	B	68 : 85	140
330	長野県短期大学図書館	A	130 : 162	38
332	ノートルダム清心女子大	D	203 : 245	278
339	篠山市教育委員会（青山歴史村）	C	93 : 118	71
350	郡山城史跡柳沢文庫保存会	B'	4 : 16	49
351	京都府立総合資料館	A'	80 : 104	124
357	東京大学文学部宗教学研究室	A	67 : 104	264
358	肥前松平文庫	A'	60 : 85	456
362	黒川村公民館	A	1 : 49	275
364	大洲市立図書館	A'	1 : 12	147
セ1	善通寺	A	91 : 112	158
ヒ5	平沢威男	A	1 : 2	50
マ6	益田家	A	135 : 157	211
ミ2	光藤益子	A	1 : 29	78
				6402

b. 和古書・明治期資料の整理

・和古書の整理	2,098 点
・明治期資料の整理	324 冊
・和古書目録書誌データ作成（登録）	833 件

- ・明治期資料の遡及入力 1,269 冊
- c. 活字本・影印本の整理
 - ・活字本・影印本の目録作成 2,089 冊
- d. アーカイブズ関係図書等の整理
 - ・図書目録作成 2,867 冊
 - なお、閲覧室におけるDB検索を開始した。
(来館時。外部からのDB検索は準備中。)
 - ・アーカイブズ学関係雑誌整理 1,685 冊
- e. 史料の目録データ整備
 - ・仮目録状態の史料群のうち、日本実業史博物館準備室旧蔵資料（アーカイブズの部）1,251 点の目録を整備し閲覧条件を向上させたことで、日本実業史博物館準備室旧蔵資料の全貌を把握した。
 - ・史料館レコーズ（旧史料館作成・受入・維持された文書・記録）1,086 点を公開した。

【資料の保存】

(1) 概 要

原形を尊重した保存・修復措置を継続的に行っている。

(2) 活動記録

① 文書・記録類の保存・修復処置

『所蔵史料目録』刊行後の史料について以下の保存・修復処置を実施した。

- a. 本格的保存措置（閲覧用識別ラベル貼付、中性紙封筒・帙等への収納と状態調査記録作成、部分的修復処置）…… 5,152 点

（「信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書－1」「武蔵国大里郡大麻生村古沢家文書－3」「鈴木荘六関係史料」等）

- b. 簡易的保存措置（保存容器への収納）…… 3,633 点

（「信濃国水内郡五荷村水野家文書」「史料館レコーズ」等）

- c. 部分的修復処置（部分裏打ちと紙継剥離貼り合わせ）…… 120 点
(15 の史料群の内)

② 古典籍原本の保存・修復処置

- a. 新収資料の燻蒸

化学薬品による燻蒸から、二酸化炭素、無酸素による燻蒸に変更した。

- b. 補修

高乗勲文庫『疏解文等』（平安末期写 1 帖）の補修を専門家に依頼した。

【利用者サービス】

(1) 概 要

閲覧時間、複写受付時間延長、セルフコピーサービス導入のほか、海外からの文献複写希望に応じて、情報学研究所のグローバル ILL（ILL：図書館相互協力）に加入し、海外への複写サービスが可能となった。（今年度の受付件数は 47 件であった。）

ILL では、4 月から 10 月までの当館の複写受付件数が加入 968 機関中 44 位、10 月には 16 位と、小規模館ながら健闘し、遠隔地からの利用に貢献している。

(2) 活動記録

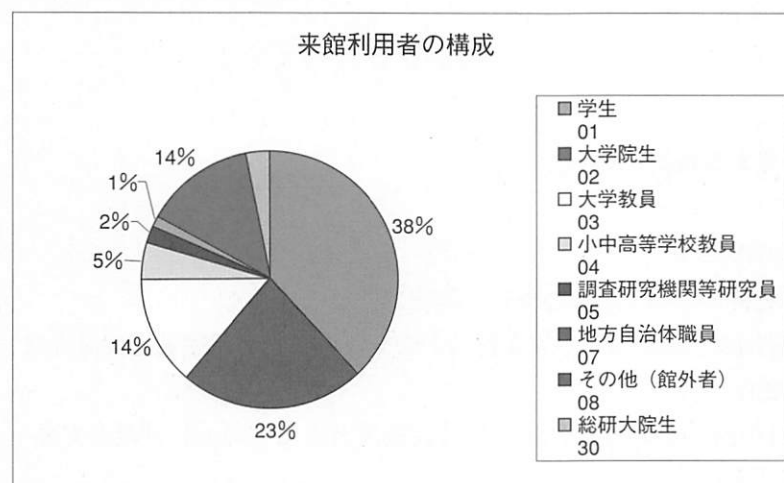
① 資料の閲覧及び複写

閲覧及び複写の実績は以下のとおりであった。ここ数年、来館利用数は減少の傾向にあるが、これは日本文学専攻の学生数が減少していること、またデータベース利用への転化などが原因と思われる。

資料 6 来館利用者数

項 目	人 数	備 考
開室日数	224 日	
登 録 者	1,740 人	
入 室 者	6,896 人	

資料 7 来館利用者の構成



資料 8 資料出納点数

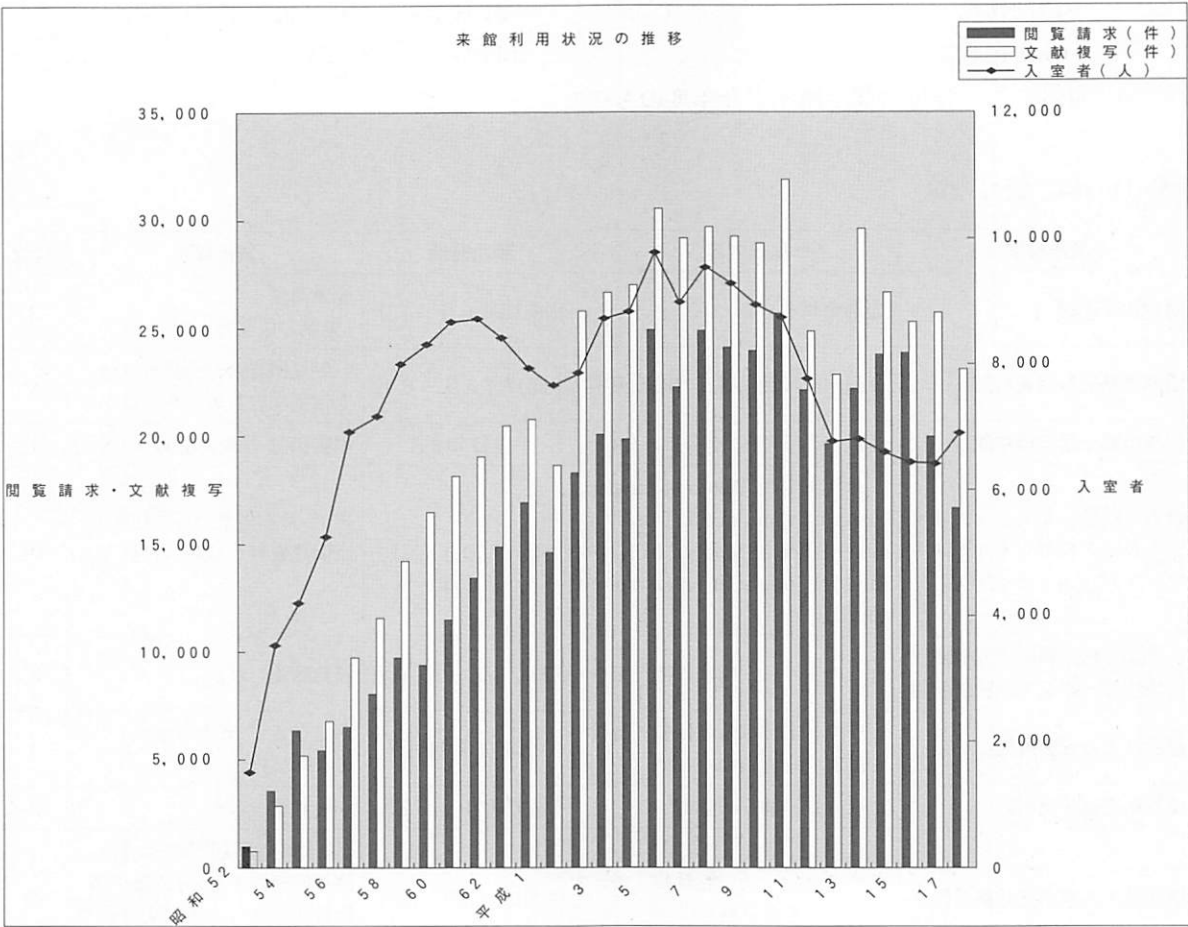
項 目	数 量 (国文)	数 量 (歴史)
図 書	5,720	547
逐次刊行物	5,080	129
ポジフィルム	3,298	—
紙焼写真本	2,411	780
史 料	—	15,432
紙焼写真本一夜貸し	32	—

資料 9 文献複写

項 目	数	量	料 金
電子複写	20,361 件	154,867 枚	4,786,005 円
RP による電子複写	2,602 件	81,976 枚	3,199,645 円
フィルム複製	18 件	579 コマ	7,835 円
紙焼作製	85 件	7,412 枚	529,080 円

*平成 17 年 12 月からセルフコピーの受付を開始した。

参考資料 来館利用状況の推移



- ② 相互協力サービス
- 相互協力サービスを以下のとおり行った。

資料 10 相互協力件数

項 目		受 付		依 頼
貸 借		46 件、79 点、86 冊		17 件 21 点
複 写	電子複写	4,252 件	30,484 枚	7 件
	RP による電子複写	619 件	49,809 枚	25 件
	フィルム複製	12 件	2,065 コマ	8 件
	紙焼作製	154 件	24,354 枚	45 件

- ③ レファレンス・サービス
- 以下のレファレンス・サービスを行った。
- ・文書による質問 27 件
 - ・電話等による質問 約 1,400 件
 - （内訳）所蔵調査 約 450 件
 - 利用についての問い合わせ 約 700 件
 - クイック・レファレンス 約 250 件

④ 掲載許可申請受付（今年度決済分）

- ・ 翻刻掲載 21 件
- ・ 写真掲載 143 件

⑤ 資料の展示貸付（展示開始が今年度のもの）

資料 11 展示貸付一覧

貸出機関	展示内容	展示時間	貸出資料	点数
MOA美術館	光琳デザインⅡ	平成17年6月～7月	光琳画譜 [猿期井魚品書上控]	2
沼津市歴史民俗資料館	豆州内浦漁民史料と内浦の漁業	平成17年5月～6月	(「伊豆国君沢郡内浦長浜村 大川家文書」のうち) ほか	22
福井市郷土歴史博物館	江戸の科学－幕末福井の好奇心－	平成17年8月	解臚図記（「越前史料」のうち）	1
渋沢史料館 ミズーリ大学セ ントルイス校セントルイス・ マーカンタイル・ライブラリー	日米実業史観/Different Lands/ Shared Experiences: The Emergence of Modern In dustrial Society in Japan and the U.S.	平成17年10月～11月 うち) ほか	机（「日本実業史博物館準備 室旧蔵資料」（器物資料）の	29
人間文化研究機関国立歴史民 俗博物館・国文学研究資料館	うたのちから－和歌の時代史－	平成17年10月～11月	長秋詠藻 ほか	8
財団法人出光美術館	平安の仮名、鎌倉の仮名－時代 を反映する書のかたち－	平成17年11月	あさひさす（「春日懐紙」 のうち）ほか	4
埼玉県立近代美術館	木村直道＋遊びの美術	平成18年1月～2月	小紋雅話 ほか	3
財団法人多摩市文化振興財団	多摩の里山～「原風景」 イメージを読み解く	平成18年3月～5月	[竹木切出并売買制限ニ付] 惣百姓連判手形（「武蔵国多 摩郡連光寺村富沢家文書」の うち）ほか	23

【古典籍総合目録事業】

(1) 概 要

当館では、『国書総目録』（岩波書店刊）を継承発展させるものとして、古典籍総合目録作成事業を行っている。その成果として『古典籍総合目録』（当館編・岩波書店刊）を刊行し、また、「国書基本データベース（著作編）」「古典籍総合目録データベース」を公開している（資料 13 データベースアクセス件数推移）。

(2) 活動記録

下記のとおりデータ作成等を実施した。

- ① データソース収集、所蔵者との連絡（書誌情報の古典籍総合目録データベース収載公開についての依頼等）
- ② 書誌データ作成（登録） 約 13,000 件

資料 12 データ作成 所蔵者・目録一覧

	所蔵者	コレクション	データソース	データ件数
1	山形大学附属図書館	柳原文庫	山形大学柳原文庫目録（昭和 56 年刊）	265
2	須賀川市図書館	矢部文庫	矢部文庫江戸期俳諧書目録（平成 5 年刊）	709
3	埼玉県立博物館	道中記 コレクション	道中記コレクション目録（昭和 60 年刊 埼玉県立博物館紀要 11 所収）	204
4	東京女子大学図書館		東京女子大学図書館所蔵近世和本目録（平成 8 年刊『東京女子 大学所蔵近世芸文集 影印と目録』所収）	863
5	法政大学図書館	正岡子規文庫	法政大学図書館蔵正岡子規文庫目録（平成 8 年刊）	706 （入力中）
6	宮城道雄記念館	吉川文庫	宮城道雄記念館蔵吉川文庫目録（平成 9 年刊）	128
7	佼成図書館		佼成図書館善本目録（平成 7 年刊）	297
8	早稲田大学図書館	會津文庫	會津文庫目録（昭和 37 年刊 早稲田大学図書館文庫目録第 3 期）	320
9	〃	藤野古白旧 蔵書	早稲田大学図書館所蔵 藤野古白旧蔵書 （平成 6 年刊 早稲田大学図書館紀要 第 39 号所収）	185
10	横浜開港資料館	ブルーム・コ レクション	ブルーム・コレクション書籍目録 第 3 巻（昭和 59 年刊）	121
11	糸魚川市歴史民俗資料館		糸魚川市歴史民俗資料館所蔵木村秋雨翁収集資料目録 （平成 4 年刊）	257 （入力中）
12	小浜市立図書館	酒井家文庫	酒井家文庫総合目録（昭和 62 年刊）	2,669
13	豊田市中央図書館		豊田市立図書館と装本目録（平成 4 年刊）	771 （入力中）
14	豊橋市美術博物館	森田家文庫	森田家文庫目録（平成 15 年刊）	923
15	武庫川女子大学図書館		武庫川女子大学図書館蔵百人一首文献目録（平成 1 年刊）	75
16	天理大学附属天理図書館		天理図書館稀書目録 和漢書之部 第四 （平成 10 年刊 天理図書館叢書 第 43 輯）	326 （838 中）
17	ノートルダム清心女子 大学附属図書館		ノートルダム清心女子大学附属図書館所蔵特殊文庫目録 （昭和 50 年刊）	1,264
18	〃	佐藤茂文庫	佐藤茂文庫目録（平成 16 年刊）	391
19	九州大学附属図書館 六本松分館	桧垣文庫	桧垣文庫目録 和装本編（平成 8 年刊）	1,330

③ 基礎データ（典拠データ）追加・改訂

④ 『国書総目録』所在・翻刻複製情報の校正・修正

⑤ 「古典籍総合目録データベース（統合版）」（仮称）システム開発

⑥ その他（マイクロ資料目録・和古書目録作成と共用する業務データベース構築システムの改良等）

資料 13 データベースアクセス件数推移

	公開開始	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
国書基本データベース(著作編)	H10.3	4,713 (* 1)	9,964	14,667	10,730 (* 2)	13,087 (* 3)	43,122	80,624	91,830
古典籍総合目録データベース	H16.2						4,476 (* 4)	48,596	64,438

→ 利用登録制廃止 (H16・

- * 1 4～1月
- * 2 7.11～1.14 休止
- * 3 5.8～9.9 休止
- * 4 2・3月

